令和３年度第８回茅ヶ崎市市民活動推進委員会
会議録

議題	（１）令和４年度実施市民活動推進補助事業公開ヒアリング及び公開プレゼンテーション
日時	令和４年３月１９日（土）　１３時００分から１７時１０分
場所	市役所本庁舎４階会議室５
出席者氏名	菅野敦　海野誠 （ＷＥＢ会議により出席） 大畑朋子　町田有紀　坂田美保子　貴島義夫　原田晃樹 山田修嗣 事務局４名（市民自治推進課） 三浦課長、小西課長補佐、遠藤主査、柿澤主任
欠席者	市川歩　森永信道
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	２４名

○事務局

それでは、始めたいと思います。本日は、お忙しい中、お越しいただきまして、ありがとうございます。

ただいまより、「令和４年度実施茅ヶ崎市市民活動げんき基金補助事業公開ヒアリング及び公開プレゼンテーション」を開始いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

では、初めに、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長よりご挨拶を申し上げるとともに、各委員をご紹介いたします。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

皆さま、こんにちは。山田と申します。

冒頭で大変恐縮ですけれども、市民活動推進委員会を代表いたしまして、皆さまに一言挨拶を申し上げたいと思います。

委員の紹介の前に、初めに、市民活動げんき基金補助事業を説明します。皆さまご存じだと思いますけれども、市民活動を推進するという目的で茅ヶ崎市の環境を様々整備しています。そうした環境整備の一環として、基金を通じた補助を市民活動団体の皆さまに使っていただいて、市民活動の活性化を図る。これによって、最終的にはゴールとして茅ヶ崎市の活力あふれる地域社会の実現を目指す。これが目的ということだそうです。このように茅ヶ崎市が定めて、平成１７年からかなり長い時間をかけて実施をしてきている事業でございます。

これまでに、約１６０件の事業に対して、先ほど申し上げた基金を通じた財政的な支援をしているそうです。この中には、団体の活動が大きく発展したり、組織そのものが成長して、自治体との協働推進事業ですとか、他の基金を目指してさらに活動されるといったような、様々な発展、成長が見られる事業です。

当然、自治体の中では、協働推進事業、委託など、パートナーとして市民活動が大きく成長しているということは、大変すばらしいことだと思いますし、こうした事業が継続されているということも大変重要ではないかと思っています。

今年度も募集をさせていただきましたところ、スタート支援に１団体１事業、ステップアップ支援に８団体８事業、合わせて９つの事業のご提案を頂戴いたしました。提案いただきましたそれぞれの事業につきましては、資料を拝見したところ、それぞれの組織・団体の強み、特徴を生かした、本当に多様なバラエティに富む内容となっているということがよくわかりました。

今日は、ヒアリング、プレゼンテーションを通して、団体の皆さまの思い、茅ヶ崎市のさらなる魅力づくりに向ける願いとか目標などを聞かさせていただきまして、内容を様々な角度から委員が検討し、評価をさせていただきたいと考えております。

事前に勉強会を開いて、委員も今回お話を伺うことを大変楽しみにしておりますので、

皆さまもぜひ熱いメッセージをお聞かせいただければと思います。

委員会のメンバーは、資料を既に拝見いたしまして、一回、感じたところ、気になったところを意見交換し、皆様へ事前質問をさせていただきました。その回答を拝見して、おおよその提案の仕組みは確認をいたしました。今日のプレゼンテーションでさらに詳しいところまで聞いて確認をさせていただきます。ここに連動して、質問をし、コメントなどを申し添えたいと思います。意見交換のいい機会だと思いますので、皆さまもぜひともご協力、ご発言のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、市民活動推進委員を紹介いたします。

名簿順ですので、画面にどのように映るかはわかりませんが、委員の皆さまは、名前を申し上げましたら、少し頭を下げていただければと思います。

それでは、まず、副委員長の原田委員です。

大畑委員です。

町田委員。

坂田委員。

菅野委員。

貴島委員。

海野委員。

今日は私を入れて８名の委員で進行してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

〇事務局

ありがとうございました。

本日は、新型コロナウイルス感染症対策のため、原則、オンラインでの開催とさせていただいております。この方法での開催にご協力いただきました各提案団体の皆さま、委員の皆さまに改めてお礼を申し上げます。

会場にいらっしゃる委員の方、また、傍聴の皆さまにおかれましては、マスクの着用、アルコールによる手指の消毒等にご協力いただきますようお願いを申し上げます。

オンラインでの開催に当たりまして、機器接続の不具合などの可能性も想定されております。どうかご容赦いただければと思います。

発表団体の方と通信が途切れるなど発表が困難となった場合につきましては、発表順を入れかえる等の対応をさせていただく場合もございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は、オブザーバー参加として市民活動サポートセンターのスタッフの皆さまにもオンラインでご参加いただいております。こちらについてもご承知おきいただければと思います。

それでは、本日のヒアリング、プレゼンテーションの流れについて、簡単にご説明申し

上げます。

まず、お配りしております冊子の１ページをご覧いただけますでしょうか。

本日、これから１７時ごろまでのお時間で、令和４年度に実施する市民活動げんき基金補助事業への申請があった全９事業について、ヒアリングもしくはプレゼンテーションを実施します。

まず、スタート支援事業の時間配分についてご説明いたします。

最初に、提案団体より５分以内で事業について説明をいたします。

時間管理について申し上げますと、まず、終了１分前にベルを鳴らします。

その後、予定時間の５分を経過したところで２度ベルを鳴らします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員から質問やアドバイスなどを行います。こちらは１０分以内を予定しております。

次に、ステップアップ支援事業の時間配分についてご説明いたします。

最初に、提案団体様より８分以内で事業についてのプレゼンテーションをしていただきます。

時間管理につきましては、まず、予定時間の半分、４分が経過した時点でベルを鳴らします。

次に、終了１分前にもう一度ベルを鳴らします。

最後に、予定時間の８分を経過したところで２度ベルを鳴らします。

プレゼンテーションが終わりましたら、委員から質問やアドバイスなどを行います。こちらも１０分以内を予定しております。

スタート、ステップアップ支援、いずれの場合も、説明中に２度ベルが鳴りましたら、途中であっても速やかに説明を終了していただくようお願いいたします。思いのこもった事業を短い時間でアピールすることは大変かと思いますが､円滑な進行にご協力ください。

また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。

質問される委員の方、回答される団体の皆さまには、１問ずつ、できるだけ簡潔なやりとりをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

皆さまの事業の評価につきましては、市民活動推進委員会が企画書と本日の発表、質疑応答の内容によって行ってまいります。

評価項目、採否の基準につきましては、冊子の２ページ及び３ページに記載されております。

満点の６０％を採択相当と判断する目安として、金額の枠内で順位に応じて採否を決定します。

令和４年度の実施事業につきましては、委員会による評価結果を受けて、最終的に市長が決定します。

採択、不採択等の結果につきましては、提案団体の皆さまには書面でご連絡する他、市

ホームページ等でも一般に公表してまいります。

なお、本日のヒアリング・プレゼンテーションの様子につきましては、スクリーンショットで撮影をして、市ホームページや広報紙等に活用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。よろしくお願いいたします。

最後になりますが、この補助金は、市民活動げんき基金を原資とする補助金となっております。市民活動げんき基金は、市民の皆さまからのご寄附で成り立っております。冊子の６ページにご寄附をいただいた方々を記載している他、冊子の背表紙にありますとおり、茅ヶ崎市の体育館に設置された湘南ヤクルト販売様の自動販売機、小和田公民館に設置されたダイドードリンコ様の自動販売機の売り上げの一部をこの基金にご寄附をいただいております。

皆さまからのご寄附がなければ、この補助金はいずれなくなってしまうこととなります。本日は、原則、オンラインでの開催にはなりますが、会場におかれましては、基金の募金箱を用意しておりますので、ぜひご協力をいただければと思います。

それでは、ただいまより、各事業のヒアリング、プレゼンテーションを始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では、最初のスタート支援の部、「多様性野菜活用の料理教室」について、多様性野菜活用支援協会から説明をしていただきます。それでは、よろしくお願いいたします。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

はじめまして。私、今回のプロジェクトを思い立ちました。２人でやります。私は飯田と申します。隣が。

○堀江

堀江と申します。よろしくお願いします。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

もう一名いるのですけれども、基本的に役員としてメインでやるのはこの２人です。

簡単に、タイトルのとおり、「多様性野菜の用の料理教室」ということで、持続可能な生活、生産、消費形態を確保するという、最近はやりのＳＤＧｓを考えたような内容になっています。

ただ、きっかけは、このメンバーですね。プロジェクトの概要としては、調理師の堀江さんとサービスの私、この２人がある福祉施設で出会って、そこからこの企画を考えるようになりました。

２の事業内容に書いてあるとおり、多様性野菜の料理教室は、健康に配慮しながら、廃棄野菜を減らすというのが一番の目的です。もし可能であれば、多様な人材を登用して、高齢者が集える場所をつくるというのが最終目的になっています。

きっかけは、こちらに書いてあるとおりですが、経験が全く異なる、年代も違いますが、介護施設で偶然出会ったときから、この考え方をするようになりました。

私は、旅行産業で３５年間、ヨーロッパを中心にやってきました。一方、堀江さんは日本料理。一流料理店で、築地とか銀座のほうで経験、修行を積まれて、その後、介護施設の施設長になられたという経歴があります。

この中で考えられたのは、健康に配慮した料理と、ホスピタリティと言われている、観光産業はサービス業ですけれども、その２つを組み合わせして地域の課題に取り組めないかということで考えました。

今、この２年間、コロナウイルスのまん延によって、社会課題というのが大きくクローズアップされてきたわけですが、一番として、地球規模で環境の破壊が進んでいることや、コロナウイルスのまん延により職を失った人もたくさんいらっしゃる。そして、人口減少で空き家が増えているという問題がまず考えられました。

そこで、これを解決するために、飯田のほうは、現在、豊洲市場に出向しています。そこで１年と少したちました。初めて豊洲市場に行って、産地から送られてくる野菜が産業廃棄物としてお金を出して捨てられているという現実があります。これでは非常にもったいないのではないかというのが１つあります。

もう一つが、環境の変化により生活が困難になった。本業で食っていけないという方が福祉施設でもたくさん働いていらっしゃるということがよくわかりましたので、これを含めて解決できないか。

何のために行うかというと、とにかく食を皆さまに無駄なく使ってもらえるような関係を茅ヶ崎の地区でできないかというのが１つと、もう一つは、これから定年が６０歳以上、だんだん上がっていくのかもしれませんが、この人たちが活発にアクティブシニアとしてできるような環境ができないかというのをもう一つの目標としてやっています。居場所をつくるということですね。

最初に考えたのは、料理教室です。多様性の野菜を使って料理教室をする。多様性の野菜というのはあまり知られていないのですけれども、簡単に言うと廃棄野菜ですね。規格サイズを外れたものは全て廃棄野菜として、普通の流通に乗りません。お金を出して捨てているという現状。一方で、食べれない人もいるのに、なぜこういうミスマッチが行われているかという問題にチャレンジできないか。

それから、多様性人材で、今、ＤＩと言われているダイバーシティとインクルージョンという考え方があると思うので、再チャレンジできるようなものができないかと思っています。

ここに経歴を置きまして、最終的にこのような野菜を使いながら、料理をつくっていく。このレシピは、プロの堀江さんにつくっていただいて、それを地域の方に料理教室を通して知っていただく。そうすることによって、無駄な野菜がそのまま捨てられることなく、さらにまた再活用できるというのがあります。

堀江料理長からのアドバイスということで、毎回、仕込みのポイントを説明しながら、市民の中に定着してくれればなと思っています。

実際、最終的に茅ヶ崎市がエイジフレンドリーシティを目標にしているということもありまして、我々の世代というか、６０歳を超えた人たちが楽しく過ごせるような感じにしたいと思っています。以上です。

○事務局

ありがとうございます。

それでは、１０分間の質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

プレゼンテーション、ありがとうございました。

では、今から委員による質問をさせていただきたいと思います。質問がある委員は、どうぞ発言をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○坂田委員

発表ありがとうございました。２つほどお伺いしたいことがございます。

多様性のある人材の雇用の創出であるとか、多様性のある人材ということ、多様性の人材という言葉が、申請書の中にも何度かあったのですが、そういう方はどういう方を指すのかなと考えておりました。今の発表を聞くと、アクティブシニアを対象とするということでよろしいでしょうか。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

もちろん、アクティブシニアの方の仕事がどうしても必要な方にも参加していただける。経験とかお持ちの方を採用してやっていきたいと思います。ただ、経営する以上、どうしてもランニングコストというのは限界があるので、それはシフト制の中で割り振るという形で、実現可能な、身の丈に合った内容でいきたいなと思っています。

○坂田委員

そのような方をこの料理教室に参加していただくことになると思うのですが、どういった方法で参加を呼びかけるのか、その方法とか、あるいは、どういったところにお声がけをするのか、その辺を教えていただいてもよろしいですか。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

声かけは、まず、堀江と私、２人とも茅ヶ崎に住んでおりますが、友人関係から一緒にやってくれないかを、口コミという形でまずやろうと思っています。ただし、市民活動に

もしたいので、掲示板にも掲示して募集をかけたいなと思っています。特にＳＮＳを使って積極的にとは考えておりません。

○坂田委員
　友人、知人の口コミというか、声がけは、かなり確実なものかなと思います。
　もう一点よろしいですか。仕入れの野菜を三浦と鎌倉となっておりますが、茅ヶ崎の野菜を使うということも視野に入れていただければいいなと考えておりますが、そちらの予定はございますでしょうか。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）
　ございます。ここは堀江さんのほうに。

○多様性野菜活用支援協会（堀江）
　今回の話ですが、もちろん、今のところ、近隣の友人だったり知人には話はしています。その時点で、茅ヶ崎の農家の方も知人がいるということで、話が現実になれば、茅ヶ崎の農家の方にも話をして、こういう活動を促していきたいなと思っております。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）
　実際、三浦野菜は堀江が今福祉施設の料理で使っている野菜で、鎌倉市は私のつながりで、実際、鎌倉の佐助にある野菜ではありますが、こちらのほうとお付き合いがあって、その２つにお声をかけているということでこうなっています。ですから、２人とも茅ヶ崎の農家につながりがなかったので、こうなっているということです。あれば、もちろんお願いしたいのはやまやまです。

○坂田委員
　ぜひ茅ヶ崎の廃棄野菜を使っていただけるとうれしいなと思います。ありがとうございました。

○貴島委員
　三浦野菜とか鎌倉野菜というのは、確かに有名でよろしくて、先ほども言われましたけれども、茅ヶ崎の野菜を使ってちょうだいよというお話もございました。私も自分で家庭菜園などをやっておりますけれども、意外と茅ヶ崎市の市場でも廃棄野菜は多いのですね。そういうところも利用していただくとよろしいのかと。規格外となると、豊洲だけではなくて、茅ヶ崎の市場でも出ていますので、その辺の利用も、すごく安価で輸送料もかかりませんし、少し考えてもらえればありがたいかなと思います。今ここでトルコナスも出ていますけれども、茅ヶ崎も様々ございますので、いろいろな料理の方法に活用していただ

ければありがたいかなと思います。以上です。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）
　まさにおっしゃるとおりですね。茅ヶ崎を選ばなかったのは、たまたま縁がなかったからだけなので、皆さまにご協力いただければ、どこかの農家と連動しながらやっていって、一緒になってこの事業を拡大できたらなと思っています。

○貴島委員
　よろしくお願いします。

○海野委員
　収支予算書のほうから何点かということで、事前質問の中に、今回は１２回ではなくて６回分だということで出ておりますけれども、内訳の表記が間違いであって、金額には誤りがないということでよろしいでしょうか。確認です。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）
　転記ミスでしたので、済みません。

○海野委員
　もう一点だけ。事業収入の中に、参加費の３，０００円というのがありますが、それが高いか安いかという判断は私にはつかないのですけれども、例えば、仕入れ経費がもう少し安くなれば、参加費も安めに設定できるものなのでしょうか。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）
　ここのところは、他の事業をやってきたときに、例えば、無料で教室をやるとか、５００円でやるとかとなるときに、当日、半分来ないのですね。欠席というのは、やったのが非常にもったいないと。つまり、安ければ、人というのは行かなくてもいいかなと思ってしまうのですけれども、３，０００円払うと、さすがに全員来ます。なので、意識を持って参加していただきたいということもありまして、一応３，０００円で設定しました。もちろん、例えば、茅ヶ崎の野菜にすることによって、輸送料がかからないので、これが２，５００円、２，０００円というのは可能だと思います。

○海野委員
　ありがとうございます。

○原田委員

先ほどの質問と少しかぶりますが、例えば、新しい働きたい方を募集する際、全くの未経験の方というよりは、ある程度経験されている方を念頭に置いてお声がけする予定ですか。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

むしろモチベーションのほうが大きいので、私も料理は全く経験がなくて、堀江と出会って、こんなにも変わってしまう。まさに画面に出ている廃棄野菜がすばらしい料理に変わって、保存食になっていきます。これは堀江から技術を伝授することも可能なので、やってみたいという人がいたら、一から出直すではないですけれども、そういう方のほうが逆に経験がある人よりいいと思っています。

○原田委員

料理でも、その周辺的な業務とか、分解するといろいろな仕事があると思います。

それと、根本的なことで、将来、これを続けていかれて、目標とされるところは、社会的な課題としては、雇用の創出であるとか、地元の廃棄野菜の活用とか、幾つか挙げていただいていますけれども、最終的には何を用意されていますか。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

今、画面に出したのですけれども、事業の最終目的、Ｃｒａｎｅ　Ｒｅｔｕｒｎ　Ｐｒｏｊｅｃｔと書いてあるのですけれども、一応、６０歳以上。今、人生１００年ということで、グラプソンというイギリスの大学の先生が言っているとおり、市民が活動できる環境にするためには、パリにエメロードというレストランがあるのですね。今日、資料は用意されておりませんが、３０軒ほどパリの市内にあります。これはパリ市がやっている事業です。庭園とか、健康に配慮した料理をするレストランをまさに空き家を使ってできないか。茅ヶ崎市には１，３００くらいの空き家があると思いますけれども、その空き家を使いながら、みんなが憩えるような場所を創出するというのを最終目的で考えています。それにまさに多様性野菜を使いながら、健康に配慮した料理、そして、年齢が高い人であるとか、ハンディキャップを負った方でも気軽に来られるような場所をつくっていくというのが市内に幾つもできたらいいかなと思います。まず１軒やって、全ての空き家をうまく改良しながら、市内全体に活動ができればいいかなと思っています。

○原田委員

日本でもそういう事業所が幾つかあったり、イタリアでこういうのが政策的に多様な人が働き場としてやっていくというのはプッシュされているので、もし事業を展開された後に、例えば、障がい者を雇用しているレストランとか、あるいは空き家を活用したレストランとか、そういうところと何かネットワークを組めるといいですね。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

今考えているのは、パリの事業というのは、僕は１５年前に大学の先生から伺って、パリに視察に行ったのです。そのつながりからパリ市の援助を受けようという感じで考えています。

○原田委員

わかりました。ありがとうございました。

○山田委員長

そろそろ時間がきていると思いますので、質疑応答は以上とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○事務局

多様性野菜支援協会さま、ありがとうございました。

続きまして、ステップアップ支援の部に移ります。

１番、「夏休み子供向けＳＵＰ体験会２０２２」、特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオンさまから説明をしていただきます。よろしくお願いいたします。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）

今日は、このような企画に参加させていただいてありがとうございます。昨年も実施させていただいたのですが、「夏休み子供向けＳＵＰ体験会」ということで、小・中学生を対象にしたＳＵＰの体験会を企画しております。

今回、プレゼンテーションの内容としては、ＳＵＰと茅ヶ崎、夏休み子供向けＳＵＰ体験会、実行費用と観光振興について、ということで進めさせていただきます。

まず、ＳＵＰと茅ヶ崎ということで、スタンドアップパドルボードの略です。ＳＵＰと言います。右側に写真がございますが、サーフボードの上に立って、パドルを使って前に進むものということです。

ＳＵＰは、浮力が大きくて、子供から大人まで、最近で言うと、茅ヶ崎の海でも、波がないときは、大人の人でもスタンドアップパドルボード（ＳＵＰ）で楽しんでいる方がみてとれるかと思います。

海はもちろんのこと、これに釣り竿を持って釣りができたり、川や湖でも楽しめるアクティビティとして、最近、ＳＵＰの人口が増えてきて、楽しむ方が増えてきて、ただ、人口が増えるということは、事故も非常に多くなってきている部分もありますが、安全の装備、ライフジャケットをつけたり、携帯電話を携行したり、そういったものを我々のＳＵＰＵという団体ではホームページなどで掲示しております。

それから、海上保安庁と連携して、茅ヶ崎の海はもちろんのこと、各地の事故状況を掲示したり、普段、海の情報を確認できない方にもお知らせしていくなどして、サーフィンとは違って、やりやすいＳＵＰに関しての安全の状況等を安全対策としてお知らせしているという形です。

もう一つ、茅ヶ崎で我々の団体で、国内の選手はもちろんのこと、海外の選手を呼んでレースをしたりもしています。ご存じのように、茅ヶ崎はサーフィン発祥の地とも言われておりますが、波のないときはクルージングをしたり、釣りをしたりということで、茅ヶ崎はＳＵＰをする方が非常に多いということで、茅ヶ崎からＳＵＰの競技も含めて文化を伝えていきたいと考えています。

今回の「夏休み子供向けＳＵＰ体験会」ですが、市民活動推進補助事業を利用させていただいて、昨年同様、ＳＵＰ体験会を企画させていただいています。コロナ禍の折り、昨年から運動がなかなかできなかったのですね。海のイベントに限らず、様々なイベントが中止になっている状況です。

来週からまん延防止の措置に関しても解禁になるということですが、子供たちの海のアクティビティとして、サーフィンよりも簡単にできるＳＵＰを用いて、小・中学生、子供たちを対象に、楽しくスポーツができるように、昨年同様に体験会を実施したいと考えています。

後ほど、昨年のアンケートもお知らせいたしますが、希望者が非常に多いということで、今回は夏休み期間中の回数を増やして開催することと企画させていただいております。

子供たちにＳＵＰ、海のことを一緒に教えていくことで、茅ヶ崎をもっと楽しめると考えております。湘南の茅ヶ崎としておしゃれな雰囲気で知名度がありますというふうに記載しましたが、茅ヶ崎自体が、コロナ禍でテレワークも含めて、茅ヶ崎に来られる方が多いと聞いております。もちろんサーフィンに限らず、海で楽しむスポーツとしてＳＵＰ人口が増えきているとお話ししましたが、小・中学生から体験してもらうことで、もっと海に出る機会を増やしてもらって、生涯スポーツとして、茅ヶ崎の一つの風景としてＳＵＰを定着させていきたいと考えています。

国内で急速に発展しているＳＵＰということなので、茅ヶ崎がＳＵＰの盛んな地域、安全にＳＵＰを楽しめる地域として、ＳＵＰをやるなら茅ヶ崎へ行こうという形をつくっていきたいと考えています。

昨年の参加者のアンケートを幾つか紹介させていただきます。年齢が小学校１年、２年、３年、幼稚園生も一部おりましたが、最高の年齢が１４歳の中学校２年生ということで、小学校低学年から、海でＳＵＰをやりたいという希望者が非常に多うございました。

それから、インストラクター。今回、実は企画の中では人数を増やしておりますが、前回、少し心配なことがあったとか、インストラクターの方が誰かわからないということもありまして、今回の企画の中では、インストラクターの数を増やすことと、インストラクター自体がわかりやすいＴシャツをつくっていきたいということも費用の中に含めており

ます。

それから、参加費は、保険をかけたりという安全も含めて、ちょうどいいという意見が非常に多かったです。また、もう少し高くてもいいという意見の中には、１回５００円という値段の中でもう少し手厚くしてほしいという意見もあって、それも含めて、インストラクターの数も今回の企画の中で考えているという状況です。

体験会の内容ですが、７月１７日以降、小・中学校の夏休みの開始から終了までで７回。午前中の時間で実施。場所は茅ヶ崎海岸。ヘッドランドと言っているＴバーのところで実際に開催したいと思います。

内容は、砂浜で３０分程度、海のルール、マナーをレクチャーして、実際にＳＵＰに乗ってもらうということで、ＳＵＰで海に出るときも、海のことを様々子供たちに指導しながら、その指導員に関しては、国内でのＳＵＰの指導者の協会の方たちをインストラクターとして呼んで開催をしています。

自己費用の部分に関しては、申請書のところに記載しておりますが、インストラクターの数を増やしてＴシャツをつくっていくということが大きなところ、前回と違う部分になります。

最後にですが、観光振興ということで、最初に申し上げた、茅ヶ崎がＳＵＰの安全に楽しめる場所ということで、子供たちからＳＵＰに慣れ親しんでもらうことで、事故なく海でのアクティビティを楽しんでもらいたいという気持ちが非常に強いです。ですので、今年も夏休みにぜひ開催したいと。

○事務局

では、このまま質疑応答に移らせていただきます。山田先生、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員から質問がある方、どうぞ発言ください。いかがでしょうか。

○海野委員

大変楽しそうなイベントだと思うのですけれども、茅ヶ崎の子供たちというのは、大体海沿いの子たちが集まるんでしょうか。それとも市内全域から集まっているものなのでしょうか。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）

昨年の実績から言うと、市内の国道をまたいで海側、山側と考えると、半々くらいです。

○海野委員

この開催にはお天気が影響されると思うのですけれども、７回開催する中で、悪天候の場合はどういう対応の仕方をするんでしょうか。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）
昨年も、３回開催したうち、２日間は順延しました。今回に関しても、台風だとか波が高いといった場合は順延を考えています。７月から８月の夏休みの期間と考えておりますが、その中でもご希望によって、夏休み以降、９月の開催も検討しています。

○海野委員
最後に、収支予算書の使用料・賃借料の中に、多分、これは道具のレンタルみたいな感じだと思うのですが、これで２０人分を賄えるレンタルの数なのでしょうか。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）
ここに記載したほうがよかったかもしれないですが、昨年、同じげんき基金の支援をいただいた部分でＳＵＰを購入させていただいております。その購入したＳＵＰを含めて、必要な分というところで６個のＳＵＰを借りるという形で考えていますので、これに４つ追加して、１人当たり１台から２台で運用していくという形になります。

○海野委員
わかりました。ありがとうございました。

○原田委員
非常に湘南らしい取り組みだなと思いました。幾つか、コロナ前だと、桑田佳祐カップとか、様々やられたと伺っていますけれども、団体の活動としては、資料を拝見すると、１つは、一般の普及としての取り組みと、もう一つは、選手の育成ということも書いてありましたけれども、こういう取り組みの中から、この子はもう少し鍛えれば伸びるとか、普及の面と育成の面と、何か意図されているものはあるのでしょうか。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）
一昨年まで、スタンドアップパドルの世界大会、ＮＳＡからＩＳＡというサーフィンの協会とともに、世界大会へ推薦選手を出すという業務をしていました。それは、我々が毎年開催しているスタンドアップパドルの世界大会の上位選手を推薦するという形でしていたのですが、コロナ禍で２年していなかったのと、昨年は実際に国内選手を対象に、一度開催はしたのですが、その中で、茅ヶ崎の子供たちに関して、これを機に、競技、レースとか、ＳＵＰサーフィンもあるのですが、そこの部分についての教育というか、それ以上やりたいという子供たちを集めて、いわゆるステップアップしていくような子供たちを対

象にした講習会を開いたりはしています。

○原田委員
　それは別途やられているということですね。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）
　そうです。

○坂田委員
　今回の収支予算を拝見いたしますと、インストラクターへの謝金が非常に重いと感じております。今回、げんき基金を補助する大きな目的は、謝金の補完と感じておりますが、この事業は、謝金がないと今後なかなか運営できないということが想像できるのですが、今後のこの事業の展望、資金的なものをどうお考えなのか、お聞きしたいと思います。先ほどのご発表の中で、選手の育成があるということになると、例えば、企業の協賛ですとか、スポーツ業界の皆さまでの協賛というのも考えられるのかなと思ったのですが、その辺についてお伺いしたいと思います。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）
　このたび参加させていただいている趣旨は、茅ヶ崎を元気にするという趣旨で、茅ヶ崎の子供たちをというところに一部限定はしておりますが、実際、通常、子供たちを対象にした体験会なり、ステップアップするスタンドアップの講習は、大体５，０００円から６，０００円で開催させていただいています。計算するとわかりますが、５，０００円、６，０００円ですると、インストラクター代が出るような計算になります。おっしゃるように、大きな大会とか、選手の発表の場という意味では、スポンサーをつけてこれからやっていくというのも、過去の大会はそうだったのですが、いわゆる茅ヶ崎ローカルで選手の育成といった部分に関しては、スポンサードしてくれるところが少なくて、今のところは、１人当たり５，０００～６，０００円の部分で、体験会以降の部分を進めていきたいと考えています。
　体験会であっても５，０００円出していただける子供たちももちろんいます。ですが、夏休みですし、こういう機会をいただいていますので、げんき基金を活用させていただいて、ぜひともＳＵＰを広めていきたいといった部分が、今回の企画の中で多くございます。

○坂田委員
　ありがとうございました。承知いたしました。

○山田委員長

では、私から１つ。今の最後のご回答について関連したところです。体験ベースを考えれば、１回５００円の参加費と安く下げて、参入障壁をできるだけ低くするということはよく理解できました。ですが、同時に、保険ですとか、海の安全性といった、正しい知識や正しい実感に基づく費用の払い方も、子供も含めて人を育てるという意味ではとても重要だと思います。こうしたバランスの中での５００円という根拠、実際の費用の１０分の１くらいにする根拠、つまり５００円には意味があるといったところについて、お考えをお聞かせいただけると大変ありがたいです。いかがでしょうか。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）

先ほど、１回当たり５，０００～６，０００円でも参加する人がいると申し上げて、ＳＵＰに限らず、サーフィンとか、海で遊ぶアクティビティの相場が５，０００～６，０００円というのは結構多くございます。今回、５００円に設定したというのは、もちろん無料にして、それ以外の部分で補填するというところも考えたのですが、このときに、ちゃんとお金を出して参加するということを子供たちにも知ってほしいということと、あとは、実際、この体験会をするに当たっては、ライフジャケットを着てもらったり、道具に対しての使い方、もちろんそろえたり、大きさとかといったものを様々細々するという、教える側の、海で遊ぶためにはこんなにいろいろなことが必要なのだよというのも見てもらいたいなというところもあって、言い方は悪いですけれども、ただではこんなにできないのだよ、みたいなことも最低限の５００円の中で感じてもらえればなというのも少しありますので、５００円の根拠という意味だと、実際のところ、１０分の１くらいの金額なので、余り根拠はないのですが、ただ、夏休みの時間がある中で、１回５００円で、少しですが、海のことが学べて、そういった体験ができれば、５００円というのが皆さま来やすいし、わかりやすいのかなというのが、５００円に設定した趣旨でございます。

○山田委員長

つまり、安全配慮は重要なので、ただではないよという意味があり、その上で、お小遣いで払うことができる金額で、まずは気軽に参加をしてくださいねといった設定ということですね。わかりました。ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、質疑応答は以上とさせていただきたいと思いますありがとうございます。

○事務局

スタンドアップパドルユニオンさま、ありがとうございました。

では、ステップアップ支援の２番目、「①フリーペーパーの編集・発行　②ＷＥＢサイトの更新と情報発信」、ＢＥＮＩＲＩＮＧＯさまから説明していただきます。よろしくお願いいたします。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（阿部）

限られた時間ですので、少し駆け足にはなりますが、お伝えさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、私たちＢＥＮＩＲＩＮＧＯ、今年度初めて助成金に応募させていただきますので、ＢＥＮＩＲＩＮＧＯという団体について少しお話をさせていただきたいと思います。

私たちは、共同代表の田中藍奈と、私、阿部汐里の２名が主な活動メンバーとして団体を運営させていただいております。

私たちは、１００年後も人間も生き物も共存できる地球を残していきたいという思いを定めまして、茅ヶ崎の地域課題や環境保全につながるライフスタイルの情報発信のハブという役割を果たすべく活動を行っています。

そのような地域課題や環境保全に着目しながら情報発信を行っている理由としましては、私たち２人が１つの課題に対してコツコツとやっていくこともとても大事だとは思うのですが、より多くの人たちと協力しながら、１つの課題に向けて動き出すほうが影響力は大きく出せるのではないかという思いから、まずは皆さまにその問題について知っていただく必要があるなという思いから情報発信を行わせていただいております。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（田中）

活動紹介をさせていただきます。

私たちは、主にフリーペーパーの制作、訪問事業、イベントの開催等をして情報発信をしています。

まずフリーペーパーということで、こちらのフリーペーパーでは、気候危機などの環境問題や、茅ヶ崎のごみの問題、ごみの有料化など、そして、環境に配慮したお店などを取材し、記事にしています。これまで４号まで発行してきましたが、趣味で行っていたため、合計で２，０００部の発行となっていますが、４月に発行予定をしている５号に関しては２，５００部の発行を予定しています。

発行したものは、茅ヶ崎の飲食店や雑貨屋などのお店、そして、ラスカの無印さんなど、また、市役所や学校など、様々なところに配架させていただき、多くの方に手に取っていただいています。

そして、「こＢＥＮＩＲＩＮＧＯ」という特集ページを設けておりますが、こちらは高校生に協力していただいています。高校生が共存や環境問題をテーマに茅ヶ崎を見たときに、聞いてみたいお店などをピックアップしていただき、実際に取材と執筆をお願いしています。

こちらは、高校生の皆さまにも環境問題を身近に感じていただきたいという思いと、このフリーペーパーの制作にかかわっていただくことで、高校生の自信にもつなげられたらいいなと思っています。

２つ目。訪問事業です。こちらは、茅ヶ崎の小・中学校、高校を中心に行っています。気候危機や環境問題が悪化してしまったとき、一番影響を受けるのは、私たちよりも下の世代だと思っています。その世代が大人になったときに手遅れになってしまわぬように、今から一緒に考えるということを大切にしています。

そして、訪問事業に対しましては、去年から少しずつ始めたものですが、今まで合計で１，０００人の方にお話をさせていただいています。

３つ目。イベント開催です。去年、茅ヶ崎のＭＯＫＩＣＨＩ Ｆｏｏｄｓ Ｇａｒｄｅｎで、クラフトループマルシェというものを開催させていただきました。現在の大量生産、大量消費、大量廃棄のあり方ではなく、一つ一つの資源を大切にしていただくきっかけをつくるために、茅ヶ崎の有機農家や環境に配慮したお店の方に出店していただき、思いのある人と生産者と消費者、そして販売の方、皆さまをつないで、物と人と思いが循環する、そんなスタート地点になれればなと思い、私たちは開催しています。

簡単にはなってしまいましたが、活動については以上になります。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（阿部）

では、このような活動がどのような効果をもたらしたのかについてお話をさせていただきたいと思います。

特に、フリーペーパーについてになるのですけれども、読者の方々が訪問事業や相談へのお声かけをしてくださったり、あとは、読者の方がお友達などを誘ってイベントに実際に参加してくださったりというように、ただ情報を得るだけではなくて、生活の中でどのようなことができるのか、そして、実際に行動をしてくださる方たちが多いという印象を受けています。

また、人が人をつないで連れてきてくださって、その連れてきてくださったことで、また私たちが情報発信をすることができるということで、より広い情報発信のきっかけがＢＥＮＩＲＩＮＧＯという団体を通じてできていると思っております。

その一方で、私たちにも様々な課題がございます。その中で１つ、より具体的な課題としましては、ホームページの有効活用ができていないという点です。情報発信をまとめて確認する場所がフリーペーパー以外にまだできておりませんで、そのせいで限られた人にしか伝わっていない部分も多少ございます。また、その結果、資金調達のための入り口などの設備もまだしっかりと整っていないのが現状です。

ですので、今回、市民活動げんき基金補助事業を活用させていただきまして、先ほど申し上げましたホームページの改善をし、過去の記事から新しい記事まで、全てを１カ所で見ることのできるように整備をするというのと、また、より多くの方にフリーペーパーを通じて茅ヶ崎の様々な課題などを知っていただく機会をつくりたいと思っております。

また、持続的な活動をしていくに当たって、活動に参加してくださる方の情報発信をホームページでさせていただきつつ、資金調達がよりできやすいように、ホームページにも

そのような窓口を設けようと思っております。

活動を活発で具体的な情報発信をより広範囲で可能にすることができるためにも、市民活動げんき基金補助事業を活用させていただきたいと思っております。

茅ヶ崎の地域課題解決、環境保全につながる発信のハブとしての役割を私たちＢＥＮＩＲＩＮＧＯが確立できた暁には、茅ヶ崎の課題に関心を持つ人が増え、課題改善につながる、住みやすいまちづくりにもつながっていくと思っております。皆さまのお力添えをいただきまして、げんき基金の助成団体として選んでいただけましたら、このようなことを実現したいと思っております。

以上、ＢＥＮＩＲＩＮＧＯでした。ありがとうございました。

○事務局

ＢＥＮＩＲＩＮＧＯさま、ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問がありましたら、ご発言ください。いかがでしょうか。

○貴島委員

私もフリーペーパーのほうでＢＥＮＩＲＩＮＧＯさんを確認しまして、なかなかいいことをやっているなと思っています。確かに、このフリーペーパーは少し数が少なかったですね。私もサポセンあたりで皆さまが頑張っていらっしゃるのをお伺いして、若いのにすごいなということを思いました。フリーペーパーの数を増やすということと、要は、地域のほうに様々なコミュニティセンターとかありますので、そういうところを、若い方、特に小学生とか中学生も結構来られますので、そちらのほうに案内を差し上げると、みんな見る機会が多いかなと思うので、皆さまのほうが活動しやすいかなと。みんなが見て、ああ、このようなことをやっているのだということがわかるのかなと思いますので、数量を増やしたりということと、コミュニティセンター関係であれば、我々のまちぢから協議会も協力したいと思いますので、お声がけいただければありがたいかなと思います。よろしくお願いします。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（阿部）

ありがとうございます。ご指摘いただいたとおり、今までは発行部数が限られた数になってしまっておりますが、今回、市民活動げんき基金補助事業の資金を活用させていただきまして、今までの２．５倍ほどの量で発行しようというふうに目標を立てております。また、それを今回限りではなくて、この先、今回、２，５００部発行させていただいたら、次は、ちゃんとその分を自分たちで発行できるように、協賛のお願いをして回ったりとか、

あとは、その資金を集められるような基盤づくりもしていこうと思っているので、できる限り多くの方につくったものをお届けできるようにと思っております。

○貴島委員
　情報発信をよろしくお願いします。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（田中）
　はい。ありがとうございます。

○海野委員
　先ほどの説明の中に、資金調達というのが一つの壁みたいなお話をされておりましたが、この中に、年間決算が１０万円ほどということで、会則を見ても、経費には売り上げとか協賛金とか、その他収入をもって充てるとなっていますけれども、年間どのくらいの収入があるものなのでしょうか。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（阿部）
　主な収入源としましては協賛金で、あとはフリーペーパーへの広告の掲載費などをいただくというところと、あとは、訪問事業等の謝礼金というものを主な売上として上げさせていただいています。昨年は１０万円少しくらいの売上金になっていたと。すいません、細かい数字がすぐ出せなくて申しわけないのですが。
　これから、今回、げんき基金をいただくに当たりましては、個人からの募金であったり、協力金というものも募っていこうと思っていますのと、あとは、情報をしっかりと提示していくことができるようになった暁には、企業の方たちにもより多くお声かけをさせていただいて、しっかりとした資金集めをしていけるようにと思っております。

○海野委員
　もっと資金が増えていくといいなと思っておりますので、ホームページなどもしっかり広報活動ができるといいなと思います。
　それともう一点なのですけれども、皆さま、大学４年生ということで、人生にはその次のステップというのがあると思うのですけれども、新たな就職とかということが考えられますけれども、この活動というのはどんな感じで続けられていくのかなと思ったのですけれども。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（田中）
　まさに今考えているところなのですけれども、ずっとボランティアでやってきて、今の活動も、私たちが動いた分、何か収入が入っているわけではないので、今年１年間で、市

民活動げんき基金補助事業以外の助成金なども申請していまして、それを活用して、継続的に私たちが動いた分、ちゃんと自分たちでも収入が出て回るように、今年でつくっていくという目標を立てていまして、今だけこの活動をして終わってしまうのではなく、私、個人的には、ずっとこれからも仕事の一部としてやっていきたいと考えています。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（阿部）

私も同じでして、この活動を私たちができなくなってしまったら終わりという形にならないために、他にも職員というか、メンバーを増やしていきたいなと思っております。そのためにも、ある程度の金額を売り上げとして上げられるようにして、みんなにもそれを配分できるような形を考えていかなければいけないと思っていますし、自分たちもちゃんと回っていくような形をつくっていきたいと思っていて。ある程度ＢＥＮＩＲＩＮＧＯという活動を主軸に置いて生活ができるような形で続けていこうと思っておりますし、そのために、今、計画を立てている段階です。

○海野委員

では、ある面では、仕事との両立ということにもなるかもしれませんが、ぜひ頑張っていただきたいと思います。ありがとうございました。

○坂田委員

若い方々のすばらしい活動をずっと拝見していて、心高まるというか、本当にうれしいなというふうに拝見しております。

今、ＺＯＯＭの背景を見ますと、ＢＥＮＩＲＩＮＧＯの文字フォントの下に、地域過保護プロダクションと書いてあるのですね。その地域過保護というところを少しご説明いただきたいと思います。余り聞いたことのないことで、多分お２人が考えたことなのかなと思うのですが、そちらの理由を教えていただいてもいいですか。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（田中）

こちらは地球過保護プロダクションです。私が高校生のときに発行したのですけれども、フリーペーパーはよく会社が発行しているので、ＢＥＮＩＲＩＮＧＯだけではなくて、会社としての名前のようなものが欲しいなということで、この言葉を選んだのです。

今の社会は、お子様、家庭に、子供に過保護だったりする話は聞いていますし、周りを見ていても感じていたのですけれども、環境に対して思いを持っている方がいなくて、子供に過保護になるのももちろんそれぞれなのでよいと思うのですけれども、もっと地球の環境問題にも過保護になるように目を向けてほしいなという思いでつくってしまった造語のようなものになっています。そういった思いでつくりました。

○坂田委員

とても目を引く言葉なので、ものすごく素敵だなと私は思いました。今後のメンバー像ですけれども、若い方がこういう活動に着手するということはすごく大事なので、ぜひ同じようなメンバー、若い方々をメンバーに取り込んで、若いエネルギーを茅ヶ崎市に反映していただけるととてもうれしいなと思います。ありがとうございました。

○山田委員長

自分も大学で教えているので、ゼミみたいにならないようにしたいと思います。デジタルネイティブ世代の皆さまにとって、紙媒体の意味とか、ホームページにこだわって、今回、作成をするといったところの狙いを少しだけ解きほぐして説明していただけるとありがたないと思いました。いかがでしょうか。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（阿部）

私たちも実際、ＳＮＳを活用させていただいているので、そちらでの情報発信も今後続けていきたいと思っているのですが、あえて紙媒体を続けていく理由としましては、今までも紙媒体をやっていて、紙の冊子を見て、それで変わったか、で終わってしまうのではなくて、その紙媒体をおもしろいと思っていただけると、その次の方に回していただいたりとか、自分たちが手の届く範囲を超えて広がっていくというおもしろさもあるなと思っています。

ＳＮＳですと、その人にしか届かない場合が多いのですけれども、あとは、不特定多数に拡散するという拡散力はあるなとは思うのですが、ただ、家庭内で共有することがなかなか難しいなと思っています。ただ、そこをフリーペーパーは超えていけると思っておりまして、実際に私たちにお声かけいただいた意見としましては、お母様がカフェでフリーペーパーを見つけて、お家に持って帰って、お家で読んで、それをそのまま食卓の机の上に置いておいたのを娘さんがおもしろがって読んでくださって､それがまたお友達にいく、みたいなことで、そのお友達がたまたま知り合いだった、みたいなことがあって、私たちのところにわざわざ連絡がきたりというふうに、自分たちが思いもよらないような形で情報発信ができるということと、その情報がつながっていくというおもしろさ。

あとは、つなげたいと思ったところにどんどんつなげてくださる。皆さまの善意で広がっていくというところが紙媒体ならではだなと思っておりますし、そこを強みだと思うので、そこはある程度の数、続けていきたいなと思っております。

ホームページは、そう言っていながら、なぜ用意するのかというところですと、実際に私たちが企業の方々にこのようなことをやっています、ご協力いただけませんかとお話しに行ったときに、企業の方々は、ホームページはどうなっていますか、そこからちゃんとあなたたちのやっているところをしっかり見させていただきたいですというふうにおっしゃる方が多かったので、持続的な活動をしていくに当たって企業の方々に協力していただ

くとなると、企業様向けにもしっかりと情報発信が届くようにしていく必要があるのかなと思いまして、ホームページのよりしっかりとした情報発信というところも挙げさせていただきました。以上です。

○山田委員長
　説明ありがとうございます。フリーペーパーは、現物の目に見えるリツイート素材だというところは大変大きな発見でしたし、ホームページは名刺がわりだというところもよくわかりました。ありがとうございました。
　では、以上、時間だと思いますので、質疑応答はこれにて閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○事務局
　ＢＥＮＩＲＩＮＧＯの皆さま、ありがとうございました。
　それでは、この後、少し休憩をとらせていただきたいと思います。予定より５分間遅らせて、再開は１４時２０分。１４時２０分から、ふらっと南湖の説明から再開させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（休　憩）

○事務局
　では、ステップアップ支援の部、３番目、「子どもを大切に育むための『子どもの権利』勉強会＆地域交流会」について、ふらっと南湖さまよりご説明いただきます。では、よろしくお願いいたします。

○ふらっと南湖（松本）
　よろしくお願いします。では、始めます。
　タイトルはこのようなタイトルにさせていただきました。
　では、簡単に自己紹介から入ります。
　代表の私は、里親になって１８年くらいになるのですけれども、きっかけとしては、前から申し上げておりますが、子ども虐待がなかなかなくならないという。今も２０年前と変わらない状態というのが、まだこの活動を続けているもとになっています。
　この２０年間の約半分の１０年間くらいは、何でこれがなくならないのかを勉強する中で、早稲田の里親研究会とか子ども虐待防止学会とつながりを持つようになりました。
　私の持つ危機感、ずっと考えてきたところではありますが、何で私は子どもの未来についての活動をするようになったのかを考えたときに、自分の生い立ちとか、育ってきた環境を考えると、すごく時代が変わってきて、また、大人の心の余裕が狭くなっているなと

いうのを感じます。保育園反対というところも象徴的なのですけれども。

あと、家制度というのは日本には昔からあるのですけれども、そこから脱却して、血縁だけに頼って子育てをしていると、ますます日本はよい方向には行かないなというのを肌で感じてきました。

では、何が大事なのかといったときに、子どもにも権利があるのだよ、子どもも一人の人間なのだよというところをもう一回大人たちが確認して認識するところが大事なのではないかなと思えてきました。

私は、季節里親という形で施設にいる１人の男の子とかかわってきたのですけれども、集団でずっといることの弊害とか、それは書いてあるように、あきらめることが身についてしまったり、別に施設とは限らないのですが、あまりにも親の意識が、親が一番という感じでいると、人生はあきらめるものだ、くらいの感覚になっていることをだんだんわかってきました。

また、児童養護施設に行く子どもが多いので、それを申し上げると、職員の交代が多くて、１８歳になって出されてしまっても、社会との関係性を築けない状態に追い込まれています。下のほうに書いてあるように、ホームレスや風俗に行ったり、犯罪に巻き込まれたり、自傷、加害という形になっていく子どもが多いのですね。

茅ヶ崎を見ると、里親会の人数は２０世帯くらいなのですけれども、割合からすると５，０００世帯に１つくらいの割合でしか里親家庭がないというのが今の日本の現状です。

これまでの自分の子育ても含めて、子どもは大人と別の人格で、意思と意見が当然あります。また、大人が子どもの声にちゃんと耳を傾ける必要があるということですね。育つ中で安定した大人が必要だということもわかったし、また、親とは限らなく、第三の大人が必要だということが子育ての中で見えてきました。

そういうことで、去年から打ち立てた南湖ハウスの３本柱。子どもをサポートする里親育成、第三の人を育てる育成と、孤立の子育てが原因で虐待が起きているということで、地域との中で関係性を持っていくのには地域の文化が必要だということで、日々の交流が大事だと思いました。

里親についてですが、今、すごくハードルが高い状態ですけれども、もっとライト級というか、私がやっている季節里親をミドル級と考えたときに、もっとライトな付き合いの感じでステップアップしていく制度にしたほうがいいのではないかと、５～６年前から思って発表しています。

南湖ハウスとそういう地域の拠点と思っていて、出会ったり、勉強会で勉強をしてみたりというコミュニティになりたいなと思っています。また、こういう拠点がいろいろな地域に広がっていくと、安心な地域づくりができるかなと思っています。

来年度の予定ですけれども、申し上げたように、子どもの権利について知らないというのが今の大人たちの現状だと思うので、みんなで子どもの権利を知っていこう、学んでいこう、それで自分の生活に落とし込んでいこうというところをメインに活動していきたい

と思っています。

協力していただきたいというところで、私たちの勉強会やイベントに参加していただきたいというのと、当事者の、今、Ｔｈｒｅｅ　Ｆｌａｇｓと検索すると、いろいろなことがわかってきますので、こちらを見ていただければと思います。

あと、この１年、様々な発信のお手伝いをしていただいて、東京新聞で取り上げていただいたり、雑誌の『Ｃｈｅｅｅｇａ』で川延さんがインタビューに来ていただいて、子どもの権利が大事だということをおっしゃっていただいたのはありがたかったなと思っています。以上です。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、１０分間の質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いします。

○山田委員長

今、１分くらい残っている段階で質疑応答になったのですが、質疑応答時間は変わらず１０分ということでいいのですね。

○事務局

１０分ということで進めさせていただきます。

○ふらっと南湖（松本）

あと、アドボカシーとか、すごくわかりにくい言葉がいっぱいプレゼンに出てきたと思うのですが、その補足をチャットのほうに張りつけておきますので、よかったらこちらをご覧になって、コピペとかしていただければと思います。

○山田委員長

それでは、委員からの質問がありましたら、お尋ねください。いかがでしょうか。

○原田委員

社会的養護というのは非常に重要な取り組みですし、実際、僕も学校時代の同期が市民の基金で施設をつくって運営しておりますが、聞いてみても、一般的な養護施設は、地域から隔離したような感じで、何をやっているかがわからないというところがすごく大きな問題だったのです。そういう意味では、地域に開かれた里親の仕組みというのはすごく大事なことだと思います。

実際、今回の事業でやられていることを踏まえて、この助成事業でやられていることというのは、確認ですけれども、１つは、関心を持ってもらって、将来、里親になってもら

えそうな人のすそ野を広げていくという趣旨でよろしいですか。

○ふらっと南湖（松本）
　そうですね。それは、１つ大きなことです。

○原田委員
　その場合、関心があって行く方の中に、そこまでは、という人も。最初の一歩を踏み出すのはかなり勇気の要ることだと思うのですけれども、実際に参加した人たちが、そこまでいかないにしても、ライト、ミドル級くらいにいくとする場合、背中を押してあげるような何か、この人だったらもう少しサポートすれば何とかなるのではないかとか、実際にそういうことをやらなくても態度変容を生み出すような変化というのは、これまでの実績で何か実感として感じられていることはありますか。数字であらわすのは難しいと思うのですけれども。

○ふらっと南湖（松本）
　今は本当に少しいらしているという感じで、説明すると、ライト級ならやろうかなとか、そういう方は何人かいらして、社会的養護の子どもというのが見えにくいので、会う機会がないですね。なので、ここには里子も卒業してここに来るので、ここで体験談を聞けるというのはあります。そういうことで、なんだ、普通の人ではない、という形で出会えればいいなと思っています。
　あと、本当でしたら、「新しい社会的養育ビジョン」というのが２０１７年に出たと思うのですけれども、そこで、もっと地域に開かれるほうがいいとか、そういう大きな方向転換があったのですけれども、なかなかそれが一般社会には知られていないというのが、施設が開かれることに移っていっていないというのがあって。でも、１８歳以降のアフターケアの問題はすごく大きいので、私は、インケア中から地域の人と関係をつくっていって、出たら、うちにおいでよとか、お世話ができるところ、おかずを持っていくねとか、そういう関係性で孤立が防げるなと思っています。だから、施設が地域に開かれるほうがいいのだけれども、それをなかなか施設側がしていないなというのが、本当はそこで市民の力というか、声が高まってくれるといいなと思っています。

○原田委員
　１点、今回の助成事業には限らないのですけれども、勉強会をやって何人参加者が来ましたというだけでは、効果がはかれないと思うのですね。ですから、細かく見ていって、最初は関心がなかったけれども、知識がこの程度深まったとか、あるいは、今までは呼んでイベントしか来なかったけれども、見学会にも来てくれるようになったとか、参加者の心情とか、態度の変化というようなものを、成果として、定性的でいいので、あらわせら

れると、助成するときに、こういう意味があるのかというのがわかっていいなと思いました。努力されていると思うので、こういうのを工夫して見せていただけると、意義はわかってもらえるかなと思いました。

○ふらっと南湖（松本）
　ありがとうございます。

○坂田委員
　お話ありがとうございました。とてもすばらしい活動をされていらっしゃるなということで、じっくりお話を拝見いたしました。
　この事業ですけれども、様々な勉強会、いろいろなことを企画されていると思うのですけれども、参加者が２０人程度、それを２回という数字が書かれておりますが、この辺の参加者の予想というか、達成できそうな状況かどうか、お声がけの方法とかを伺ってもよろしいですか。

○ふらっと南湖（松本）
　社会的養護の問題はすごく複雑でわかりにくいのですね。問題は大きくて。今、ちがさきテレビの藤川さまという方が結構応援してくださって、何千人かの番組を持っていらっしゃるので、少しずつですけれども、Ｙｏｕ　Ｔｕｂｅみたいな形で、少しずつ整理しながら発信していこうかなという作戦を考えていまして。今年の２月９日にちがラボチャレンジというのをやったり、この間は居場所交流会に参加させていただいたりして、現状と、ほんの少しですけれども、こういうことをやろうとしていますという形で伝えてはいるので、そういう形で少しずつ関心を持っている人を増やして、今までは南湖ハウスでやっていたんですけれども、数も限られるので、アウトリーチではないですけれども、出ていって、どこか場所を借りて増やしていきたいなと考えているところです。

○坂田委員
　たくさんの人に知ってもらって、共感してもらって、応援してもらって、子どもの権利、保護、それはとても大事なことだと思うので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。まだ設立して２年程度ということなので、今後のことを見据えますと、法人格をとって提言活動にまで発展していっていただけるといいのかなと思いました。頑張っていただきたいと思います。ありがとうございます。

○ふらっと南湖（松本）
　ありがとうございます。

○山田委員長

では、私から１つだけ、簡単なというか、質問があります。前回もライト級の付き合いというか、対策のようなものを、松本さんを中心に展開されているというご説明がありました。こうした経験やノウハウの蓄積について、今回新たに考えていらっしゃることとか、こういったものを他の団体などに活用してもらう予定があれば、教えて下さい。今もアウトリーチとか、説明をということで広げていくということも射程に含まれているというお話がありました。今回の活動をきっかけに、ご自身のところの情報をどんなふうに蓄積されているのか、もしもイメージとかアイデアがあればお聞かせください。

○ふらっと南湖（松本）

里親はあくまでも子どものサポートなので、サポートする側がある程度勉強しておかないと、子どもをもう一回傷つけてしまうこともあります。そこで、さっきチャットに入れたアドボケイト講座とか、今、どんどん勉強する機会ができているので、そういう形で勉強をみずからやっていっていただくための講座があるよとか、そういう発信をあわせてしていきたいなとは思っています。

あとは、当事者の子が発信するようになってきましたので、当事者の子たちを育てるというのもすごく大事だなとこの１年感じてきて、本人たちも、正直にお話しするので、一番それが伝わるかなとは思っています。

○山田委員長

それでは、時間ですので、質疑応答は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

ふらっと南湖さま、ありがとうございました。

では、続いて、ステップアップ支援の４番目、「鶴嶺中学の学習支援開始の感染防止対策とパワフル大作戦」について、特定非営利活動法人こども応援丸さまより説明していただきます。よろしくお願いします。

○特定非営利活動法人こども応援丸（津田）

こんにちは。こども応援丸でございます。

これまでの６年間、私ども、協働推進事業、そして委託事業として市内の３校の中学校の学習支援をしてまいりました。そして、来年度から新規として鶴嶺中学校の学習支援を始めることとなっております。これまでは、私どものほうから学校に対してアプローチをかけて、１校、また１校と対象校を広げてまいりましたが、今回は初めて学校側からの依頼により学習支援を始めることとなりました。

鶴嶺中学校のスクールカウンセラーの方から、一部の児童において、学習の習得の低さや、ご家庭の経済的事情などから塾などにも行かれないということを言われて、今、何とかしてあげないといけないのだということが管理職に上がったらしいです。そして、管理職から私どもにお話がございました。

くしくも、現在、コロナ禍という状況において、徹底した感染対策をした中で学習支援活動を行い、ボランティアを守る状況をつくりたいと私どもは思っております。

たまたま今回、３月１４日でした。鶴嶺中学に、２年生になるお子様を持つお母様から「入会希望」と題したメールが私のほうに届きました。内容としては、勉強の意欲が出ず、成績が１や２の状態です。本人、こちらのホームページを拝見しました。行ってみたいと話しております。こちらの参加は可能でしょうかというメールをいただきました。

私は、今、実施している学習支援自体、決して間違っていないものではないかなと思っています。なので、安定的なボランティアの確保、そして資金の確保をしなくてはなりません。その核となっていくものは、１つは我々の足と、もう一つはホームページだと思っております。

これまで、活動となる資金は、茅ヶ崎市からの補助金が中心で、資金を集める活動、例えば、広報紙をつくる余裕など全くありませんでした。私たちの熱い熱意をその広報紙に込めて、市内のいろいろな企業、まちぢからに働きかけたいと思っております。

先日のタウンニュースをご覧になられましたでしょうか。第一カッターが２年連続で市内の小学校に通う１年生全員に黄色い通学帽をプレゼントするという記事が出ました。あのような、市内にある温かい企業１軒１軒にご支援をお願いにあがりたいと思っております。

もう一方でホームページですが、実は残念ながら稼働していません。現在、ご協力をいただいておりますボランティアの募集は、ａｃｔｉｖｏという有料サイトからなるもので、そのボランティアの参加日程調整は「調整さん」というサイトを使っております。また、これらの様子は、フェイスブックやメールを介して行っております。また、学校の児童やご家庭のご父兄に応援丸の参加案内やお知らせ、活動の様子をお伝えするのはＱＲコードなどを使っております。それら全てをまとめ上げたハブとなるホームページを作成し、情報を発信していきたいと思っております。

そんな、今現在動いていないホームページですが、最近、ある方がご覧になり、このようなことがございました。小学校３年生のときに少しトラブルがあって不登校になった方からでした。日本は義務教育下でありますが、それから１日も学校に通わないで小学校を卒業したそうです。そして、同様に、３年間１日も学校に通わず中学校を卒業したそうです。

そんな彼女が１７歳になったある日、やっぱり高校くらい、勉強して卒業したいと、高校の入学を考えたそうです。この冬にこども応援丸の存在を知って、数回ではありましたが、ここへ来て一緒に勉強しました。そして、この間の高校合格の発表の翌日でしたけれ

ども、お母様から涙あふれるような声で合格を告げる電話がありました。そのときにお母さんがおっしゃっていたのは、本人が高校に入っても応援丸で一緒に勉強したい。行っていいですかと言われたのですね。もちろんそんなの断る理由なんかありません。一緒に勉強しようとお答えしました。

こういう事態を果たしてどこまで行政の方はご存じなのか。このようなおぼれた子どもたちがいることを本当にご存じなのでしょうかね。ＳＮＳを最大限に利用して、まだまだ、見つからない、おぼれている子どもたちを私たちこども応援丸はすくい上げたいと思っています。

ここで、私どもかつくりました動画をご覧になってみてください。

（動画）

このようなものをつくらせていただきました。私どもが一番大切としているのは、ボランティアなしにはできないことなのですね。そのボランティアを今までは１回の会場まで来るのに５００円しかお支払いができなかったのですけれども、今回、それもなくなってしまうということで、クラウドファンディングを今やらせていただいております。

○事務局

ありがとうございます。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員の方、質問がありましたら、お尋ねください。いかがでしょうか。

○原田委員

非常に重要な取り組みだと思いますし、恐らく、できない子ほど、家庭問題であるとか、見えない障がいを持ったりとか、いろいろな困難なものが重なって、取り組まれるのは大変だと思うのですけれども、さっきおっしゃったような、情報発信したり、お互いの連絡調整をしたりすることというのは、ボランティアにお願いできるような。ボランティアというのは、現状どんな方がいらっしゃるのかというのと、どう来ていただいているかというのは。

○特定非営利活動法人こども応援丸（津田）

ボランティアは、学校の元先生ですね。教育長もいらっしゃいます。あと、自分みたいに、もともとＰＴＡで子どもたちのことには関心があったのだけれども、教えるまではできないけれども、子どもたちの話を聞けるよという人たち、それと、今は高校生ですね。応援丸を経験して、自分たちが高校生になって、後輩に教えることができるのではないか

という高校生。次の世代ができています。それと、近隣の大学生ですね。そういう方々が中心。あとは、出版社の方もいらっしゃれば、本当に幅広く地域の子どもたちにということで考えていらっしゃる方々がたくさんいらっしゃいます。主にそのような方ですけれども、中には、パソコンが器用な方とかがいらっしゃって、今度やっておりますクラウドファンディングは、任せたらパッとページをつくってくれる方もいらっしゃるし、今、全部で１５０人くらいのボランティアがいらっしゃるのですけれども、一芸に秀でた方がいるので、自分らが助かっております。そんな感じでございます。よろしいでしょうか。

○原田委員

そういう方に定期的に入ってもらって、情報を更新してもらえるといいなと思いました。

あとは、茅ヶ崎の行政の職員ですけれども、民間の団体単独でやることの限界性というのは、おっしゃったように、そのとおりだと思います。どうやってこれを公費で支えられるかということは、我々の委員としても考えていかなければいけない問題だなと思いました。ありがとうございました。

○海野委員

まず１点目ですけれども、この事業が市民活動げんき基金補助事業の前には市の委託料でやっていたということなんですけれども、委託料が終了してしまった理由は何でしょうか。お聞かせください。

○特定非営利活動法人こども応援丸（津田）

詳しいお話まではお伺いしていないのですが、まず１つは、先ほどお話ししましたように、３校にわたっての事業だったのですね。要は、市の考えで言うと、一部の学校だけ、一部の地域にだけお金を出すのはいけないのではないか、みたいなことを何年か前に市会議員から言われているのは拝聴したことがあります。

ただ、自分としては、４校くらい自分たちの地域でやっているところがあれば、それはそれでいいのかなと思っているのですね。できていないところにつくり上げていくのが自分たちの仕事かなと思っています。

それがあった後、今、茅ヶ崎に子ども未来応援基金というのがあるのをご存じでしょうか。先日もこれについて市長にぜひそれを使わせてくださいというお願いに行って、動いてはいただいたのですけれども、お答えがなかったという部分がありました。

実は学校のほうとしては、ここからは自分の推論になってしまうのですけれども、コミュニティスクール制度というのが去年度から始まったのですね。これは、学校だけではなくて、地域もともに一緒に子どもたちを育てるように考えていこうという制度なのですけれども、それの中で、来年度も私どもが担当しております鶴が台中学校は、コミュニティスクール制度の中で、自分たちに学習支援してくれという依頼を受けております。そうし

たときに、このお金を教育委員会がもつのか、あるいは、地域として、要はまちぢからとか自治会がそれをもつのかという部分の裏のお話かなのかなと僕は思ってはいるのですけれども、それの駆け引きで、自分から出したくない、あっちに出してほしいというようなのが教育委員会の中に見え隠れしているのかなというのが、正直な僕の推論ではあります。それで今年は切られてしまったのかなと思っています。

決して無駄な事業ではないので、よく行政の事業を切られるときは、その事業が必要ないからというようなことに思うのですけれども、現にこれだけたくさんおぼれた生徒たちがいらっしゃるのを目の当たりにしているし、多分、本当はお気づきだと思うのですよね。野放しにしておくわけにはいかないので、多分、何年か後には、このコミュニティスクールのもとに教育委員会が出すのか、地域で、それこそ自治推進課のほうから予算をいただくのかというような形になる、今、ちょうど過渡期なのかなと自分は推論しております。よろしいでしょうか。

○海野委員

すいません。ありがとうございました。

今、実際に３校やっていて、４校目になるということですけれども、先ほど、スタッフのお話がありましたけれども、４校目になって、スタッフは充足されているものなのでしょうか。

○特定非営利活動法人こども応援丸（津田）

今も毎週、ａｃｔｉｖｏを通じて、ご希望の方のお名前はどんどん入ってきています。それに対して、面接という形で、１人担当者、元教頭の方がいらっしゃって、どんな方なのか、実際、それができるのか、このような内容なのだけどというのを判断した上で参加していただく形をとっております。人数的には充足を続けている状態ではあります。

○海野委員

わかりました。安心しました。

私は今、社協にいるのですけれども、コロナ禍において生活困窮された方で貸し付けとかがかなり多くなっていて、その中には小・中学生のお子さんを抱えた家庭もかなりあるので、そういう意味ではこの事業というのは大切な事業だと思いますので、今後とも続けていかれるようよろしくお願いいたします。

○特定非営利活動法人こども応援丸（津田）

ありがとうございます。ぜひご協力をお願いいたします。

○貴島委員

今、市民自治だとか、まちぢから協議会、自治会等のお話が出ましたけれども、私も何かしら少し遠目な感じで聞いたことはあると思うのですけれども、こういう事業というのは確かに必要性はあるのですけれども、何か引っかかっている部分があるのかなと思っています。小学生に関しては、私たちのほうでも結構やっているのですけれども、中学校となるとレベル的に少し高い部分があって、一般の方のボランティア関係というのはなかなか参加できない。確かに、教員関係の有識者みたいな感じの方が教える分にはいいと思うのですけれども、我々のところで今やっているボランティア関係は、小学生までは何とか頻繁にやっています。特に優先してやっていることは、コミュニティセンターあたりだと、１年間の枠をとって、確実にその時間帯は使える時間帯、うちで言うと学習サロンみたいな感じでやっているのですけれども、応援丸としては、施設の年間予約はできているのでしょうか。

○特定非営利活動法人こども応援丸（津田）

現状で言いますと、３校やらせていただいておりますが、３校については確保してございます。西浜中学校については、火曜日に１時間半、南湖公民館。香川の鶴が台中学校に関しては香川公民館で木曜日に１時間半。そして、金曜日が梅田中学校で、青少年会館を１時間半という形で利用させていただいております。今後、鶴嶺中学校でやるようになると、鶴嶺公民館を使用させていただいて、同じような１時間半の授業を考えております。

それと、同じ日の今申しました３日間に関しては、今現在、コロナ禍という事情もありますので、ＺＯＯＭを利用したリモートの授業を１時間やらせていただいております。

○貴島委員

コミュニティ施設が結構ありますので、そちらは無料で利用できていますので、できる限りそういうお話をまちぢからに差し上げてみたらいかがでしょうか。よろしくお願いします。

○特定非営利活動法人こども応援丸（津田）

ありがとうございます。

○山田委員長

それでは、時間になりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

こども応援丸さま、ありがとうございました。

では、続きまして、「いのちの教室（仮）ｉｎ『わんにゃんマルシェ』」につきまして、わんにゃんマルシェ実行委員会さまから説明していただきます。よろしくお願いいたしま

す。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）

本日は、このようなプレゼンの場を設けていただき、ありがとうございます。わんにゃんマルシェ実行委員会、川上と申します。よろしくお願いいたします。

最初に、これまでのわんにゃんマルシェの活動をまとめた動画を見ていただきたいと思います。

（動画）

こちらの動画は、今年のサポセンのオンラインイベント、こどたん＋（プラス）にて紹介いただいた動画となります。

わんにゃんマルシェは、動物が捨てられない世の中にすることを目的として活動している団体です。

第１回からこれまで、８回のイベントを開催してきました。

これは１回目の様子です。

第３回からは、会場を屋外に移して、動物たちとも触れ合えるように、譲渡会を中心としたイベントとして多くの方にご来場、ご参加いただいております。

こちらは過去の会場の様子です。

第７回は、寒川中央公園にて、神奈川県の動物フェスティバルｉｎかながわと同時開催をさせていただきました。また、その会場でわんにゃんマルシェのこれまでの活動を表彰していただきました。

コロナ禍での第８回は、いつものイベントより大幅に規模を縮小し、保護団体の譲渡会を中心に開催いたしました。ご来場いただいた方にご協力をいただき、コロナ対策をしつつのイベントとなりました。

こちらは会場内で配布させていただいたパンフレットになります。

そんな中で私たちは、イベントを開催しつつも、これからできることを模索中です。

本年度は、ホームページもサイトをオープンし、活動の様子をネットを通じて発信することもできました。

フェイスブック、インスタ等のＳＮＳもやっています。よかったらフォローをお願いいたします。

私たちのゴールは、捨てられる命がゼロになること。動物が安易に捨てられない世の中を目指して活動を続けていきたいと思っています。

第８回までは、このようにイベントを中心に活動を重ねてまいりました。

そして、今年度第９回のわんにゃんマルシェなのですが、こちらも新型コロナウイルスの感染状況をうかがいつつ、何度も実行委員会で検討を重ねた結果、当初の予定を大幅に変更。日程を今年の３月に延期し、昨年度同様、保護団体の譲渡会を中心に、規模を縮小しての開催となります。来週３月２７日の開催です。お時間のある方は、ぜひ中央公園ま

で遊びに来てみてください。

さて、こちらは今年の１月に神奈川新聞に掲載された記事になります。コロナ禍でのペットブームと、多頭飼育崩壊現場からの引き取りなどが重なり、平塚にある動物愛護センターの猫の収容可能数がいっぱいになってしまったという記事なのです。これを受けて、神奈川県では、収容施設を増やすという計画もあるようなのですが、それが根本的な解決につながるとは思えないのです。

動物を安易に飼わない。飼ったら最後までその命に責任を持つ。飼い主でもある私たち人間の意識を変えていかないと、本当の意味での解決にはならないのではないでしょうか。私たちわんにゃんマルシェの動物愛護の根底にあるものはそれです。そのための啓発活動として、イベントに合わせ、市民活動げんき基金補助事業の力をお借りし、昨年度はパンフレットを、今年度はホームページをつくることができました。

画面右側は、昨年末のサイトオープンから３カ月間のアナリティクスです。ページビューはまだまだながら、注目していただきたいのは、丸で囲んである直帰率とセッション継続時間です。これは、サイトを訪れた人がじっくりとサイト内を見ていってくれたということ。多くの方の関心の高さを示しています。

しかし、コロナ以前に比べて、イベント開催もままならない今、次に私たちができることは、と考えたときに、年に１回のイベント開催だけではなく、年間を通してできる「いのちの教室」といったものを開催したいと考えました。いのちの教室では、動物を飼うということ、その命に責任を持つということを考えていただきます。私たち一人一人が安易に動物を飼わない。ペットを迎え入れる前にその一生をきちんと考える。動物の知識を学ぶ。その意識が、その行動が、結果、不幸な動物を救うことになるのです。

そして、そこになぜ動画が必要かという点では、多くの動画配信サイトで動画が発信されている現代において、動画が一番わかりやすく、多くの人に訴えかけられるツールだと思うからです。

当初の目標としては、公民館やコミセンなどでの開催、そして、今後、いのちの教室は、小学校、中学校などの教育現場で、子どもたちを対象に開けたらと考えています。今どきの子どもたちには、数多くの資料やデータを見せるより、動画で見てもらうほうがより興味を持ってもらえるのではないでしょうか。そのためにもきちんとしたクオリティの質の高い動画をつくっておきたいと考えました。

新型コロナウイルスの流行が始まって２年以上。私たちの生活も大きく変わらざるを得なくなりました。そんな中、わんにゃんマルシェの活動も臨機応変に変わっていく必要を感じています。大きなイベントだけではなく、ネットを通じた一方向の発信だけではなく、世の中の状況に合わせて、小さくても直接私たちの思いを、活動を届けられる場所が必要なのだと感じております。人間の都合に振り回される動物の命を一匹でも救うために、私たちはできることから活動を続けていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございます。

○事務局
　ありがとうございました。
　それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長
　では、委員からの質問がありましたら、お尋ねください。いかがでしょうか。

○原田委員
　非常に重要な取り組みだと思うのですけれども、私がよく把握できていないところもあるのですけれども、イベントとか、先ほど拝見したのですけれども、具体的な保護活動をしているわけではないのですよね。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）
　わんにゃんマルシェとして犬猫を引き取ったりとか、譲渡会を開いたりとかということではなく、そういう活動をしている保護団体を応援しているということですね。そして、動物愛護という観点で、そういう動物が一匹でもいなくなるように、皆さまに考えてもらいたいという活動をしています。

○原田委員
　例えば、私の住んでいるところでは地域猫がすごく多いので、僕らがかごを持って、去勢の活動を町内会でやってはいるのですけれども、具体的なアクションに結びつくための促しに、具体的に応援といったときに、イベントをすることで具体的な保護活動をしている団体にどういう応援できているのか、その点、いかがでしょうか。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）
　イベントを通じて募金をしていただいたりとか、あと、前回からなのですけれども、コロナの関係もあって人をたくさん集められないということもあって、入場料を１人１００円ずついただいているのですね。その集まった入場料を全部、保護団体に均等に分けて寄附金として寄附させていただいています。あと、会場内に募金箱を設けたりとかして、そこに入ったお金も全部寄附金として寄附させていただいています。
　それと、イベント会場内でも里親募集の犬猫を連れてきてもらって、ワンちゃんとか猫ちゃんとかを見てもらって、里親になりたいという人とのマッチングは、各保護団体同士でやるのですけれども、そういう場として活用していただいています。

○原田委員

例えば、寄附をしていくという目的であれば、何年かしていくと、市の助成も受けずに、ファンドレイジングしてやられるというイメージですか。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）
もともと、最初、コロナ前は、企業から協賛をいただいたりとか、個人の方から協賛をいただいたりして運営は賄っていたのですね。あと、出店者を募って、キッチンカーだったり、物販の出店者の出店料というもので運営を賄っていたりという部分があったのですけれども、大きなイベントができなくなったということもあり、協賛金が入ってこなかったり、出店料が入ってこなかったりという部分で、運営が今厳しくなっているなというところはあります。

○原田委員
あと１点だけ。イベントをすると、こういうのに関心を持っている人は来ていただけると思うのですけれども、本来、何とかしてくれないかという人はなかなか来てくれないのではないかと思います。何かその辺は工夫されていますか。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）
イベントに来てくれたりとか、今回、うちのつくったホームページを見てくれる方は、動物愛護に興味を持っていたり、保護犬だったり保護猫の存在を知っている方がほとんどだと思うのです。なので、今回ご提案させていただいた「いのちの教室」というのは、そういうことを全然知らない人たちにも訴求できるものにしたいなとは思っています。

○坂田委員
動物愛護に関する団体は、私は平塚なのですけれども、たくさんありますし、秦野市ですとか、綾瀬市ですとか、いろいろなところで地域猫活動をしている団体とも私も常に情報共有させていただいているので、非常に興味深くお話を拝見いたしました。
お伺いしたいのが、コロナ禍の中で、今、空前の猫ブームということで、たくさんの猫を飼う方がいらっしゃっていて、これがそのうち、多分捨てられてしまうのではないかという社会的な懸念事項になっているという状況、新聞、メディア等でもにぎやかされているような現状を私も憂いております。
そうすると、そういったところと、今、実際には保護活動をしている団体を応援するということなのですが、そういう団体と日ごろどういうお付き合いをしているのか、あるいは、団体はどのくらいの数の方々とつながっているのか、情報共有の仕方とか、その辺を教えていただいてもよろしいですか。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）

コロナ以前のイベントに関しては、団体数で言うと１２から１５団体がイベントに参加していただいていました。情報共有のほうですが、今年度、ホームページをつくることで、ホームページ上で、希望する団体だけなのですけれども、里親募集の犬の情報だったり猫の情報だったりをわんにゃんマルシェのホームページにも掲載して、より多くの人に見てもらうということで、保護団体とはそういう観点ではまめに情報のやりとりということはできていると思います。

○坂田委員

保護団体の皆さまは、どちらかというと捕獲をしたり去勢手術をしたり、そして、会員が里親が見つかるまで自分で預かったりということで大変ご苦労されておりますが、情報発信のところまで手がいかない団体にとってみれば、こういう実行委員会がかわって発信をしてくれるということになると、非常に心強いだろうと思います。発信面で強力なホームページもつくられたということですし、今後、動画も作成するということですので、ぜひ保護団体の皆さまの活動を補完するような形で動いていただけると助かるのかなと思いました。また、いのちの教室というところも非常に大事な観点だと思いますので、ぜひ頑張っていただければと思います。ありがとうございました。

○山田委員長

それでは、私から質問させていただきます。昨年度の報告において、前回も感染症対策で限定的なイベントをなさったのだけれども、かなりの来場者があって行列ができるなど、かえってその辺の管理が大変だったというお話を伺っていました。そうした取り組みの中で、今回新たにいのちの教室という形で情報発信を積極的になさっていくという取り組みを計画されています。プロの手を借りて作成するということについては、もちろんこれはお考えもあることでしょうから、それはそれでぜひ進めていただければと思います。もう一方で、こういった情報メディアコンテンツの具体的なコンテンツ部分、何をどのように発信するのかということに関して、今、予定されている範囲で結構ですので、自分たちの団体で得た情報をこのように発信していこうとか、過去のわんにゃんマルシェに集まってくれた様々な団体の取り組みをこのようにまとめて、それをコンテンツ化しようとか、もくろみがあったらお聞かせいただけますでしょうか。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）

今回、もし動画を作成させていただけるようでしたら、わんにゃんマルシェのＹｏｕ Ｔｕｂｅチャンネルを開設したいと思っています。そこで今後の取り組みとして、いのちの教室を開催して、そのときの様子だったりをダイジェスト版で流したりとか、あとは、犬猫に関する質問に、実行委員会の中には獣医師もいますので、そういう方からの返答をまとめたものを動画として流したりとか、あとは、イベントの様子を動画にして流したりと

か、あと、ゆくゆくというか、先々の話ではあるのですが、保護団体のところに行って、保護団体がどういう活動をしているかというのを動画にしたものを流せたりしたらいいなとは思っています。以上です。

○山田委員長
　ありがとうございます。よくわかりました。
　それでは、質疑応答の時間は以上のようですので、これにて質疑応答の時間を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○事務局
　わんにゃんマルシェさま、ありがとうございました。
　それでは、この後休憩に入りたいと思います。再開は当初の予定どおり１５時２５分、４Ｈｅａｒｔｓさまからお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

（休　憩）

○事務局
　それでは、再開したいと思います。
　それでは、続きまして、「スローコミュニケーションプロジェクト」につきまして、一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓさまからご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）
　皆さま、こんにちは。一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓの代表をしております那須かおりです。生まれつき、全く耳が聞こえていません。手話通訳士の津金と一緒に２年前に法人を立ち上げました。４Ｈｅａｒｔｓは、聞こえない、聞こえにくい人たちの「伝えたい」が歓迎される社会を目指しています。
　皆さまは、聴覚障がい者と聞くと、手話をする人、みたいなイメージがあるかもしれないですけれども、生まれつき耳が聞こえないろう者だったり、難聴者だったり、中途失聴、耳が遠いと言われる加齢性など、様々な人がいます。日本にいる聴覚障がい者の人数が約３０万人と言われておりますが、あくまで手帳を持っている人の人数で、片耳難聴の方は手帳を取得できません。また、加齢性難聴、耳が遠い高齢者については、７５歳以上の７割以上の２人に１人が発症しています。補聴器を必要とする難聴者は、全人口の１１．３％、推定１，４３０万人と言われていまして、茅ヶ崎市に換算すると２万７，０００人です。難聴者のうち補聴器使用率は１４．４％となっています。これは約９割の方が何らかの聞こえの改善策をとっていないということになります。
　そんな聞こえない、聞こえにくい人たちの社会課題を、地域や周囲の人を巻き込んで解

決するというスタンスをとっています。当事者からの課題としては、筆談に負い目を感じたり、遠慮してわかった振りをしたり、あきらめたり、場を壊したくなくてほほえんでごまかしたりとか、雑談を含めた全ての情報が得られないから、イエスかノーかすら判断がしづらい。判断ができないから行動が起こせないという構造になっています。

そして、周囲の人にとっての課題は、身近にはいないから、なかなか自分ごとにならなかったり、当事者にどこまで伝わっているのかわからなかったりします。特に、コロナ禍でみんながマスクをするようになって、社会との距離を聞こえる人以上に私たちは感じています。

私もそうだったのですけれども、マスクと感染防止シートでレジの人の話していることがわからなくて、聞き取りに首を振っていたら、袋がもらえなくて、両手に商品を抱えて帰ったりとか、４Ｈｅａｒｔｓの活動を始めて、いろいろな人を巻き込んで助けてもらっておりますが、相手が対等に接しようとしてくれているのに、私はどこかで申しわけないとか、自分で自分を障がい者にしてしまっているところがあるなと思いました。

だから、当事者側も変わらなければいけないし、八百屋のおばちゃんとか、魚屋のおじさんと、これがおいしいよとか、たわいのない会話ができるようになりたい。一歩想像して、わからなかったらわからないと伝えられるようになりたいなと思いました。

しかし、コミュニケーションに課題を抱えている人というのは、聞こえない人だけではないですね。お年寄りとか、子どもたちとか、海外の方とか。こういった人たちに共通していることは、困りごとを抱えているのだけれども、パッと見、外見から具体的にわからないんですね。迷惑をかけたくないと思って、溶け込んでしまうことができるのですね。だったら、全ての人が困っていることを言い出しやすいまちづくりをしよう。周りの人たちの意識を変えたらいいのではないか。自転車をこいでいて、目の前を歩いている人がもしかしたら聞こえない人かもしれないとは、普段、想像しないじゃないですか。だから、きっとこうなのかもしれないなと一歩想像しましょう。そういうことを含めて、当事者と周囲の人のマインドを両方変えて、温かい社会を生みたい。それでスローコミュニケーションプロジェクトを始めました。全ての人の伝えたいを大切にしている社会。焦らず、急がず、ゆっくりと、心のゆとりを持って、一歩想像して相手を思いやる気持ちを大切にしたコミュニケーションができるまちや社会を一緒につくりましょう。

スローというのは心のゆとりのことです。それぞれの立場のスローコミュニケーションが生まれる人、まち、コミュニケーションデザインだと思っています。売り上げ目標だったりとか、ＳＮＳで誤ったことを言うと炎上してしまったりとか、答えや正解を求められる今の世の中において、私たちは答えを出さないことをむしろよしとしています。

それらのことから、今年度の市民活動げんき基金補助事業で制作したチラシになります。今年度のキリン福祉財団の助成金で小冊子も現在制作中です。

まずは、先ほどの自転車の例もそうですけれども、アンコンシャスバイアス、無意識の思い込みに対して、体験を通して気づきスイッチを入れるということをやりたいです。聴

覚障がい者の苦労がわかりましたというところが着地点になって、その先のバイアスがかかっている自分に気づいたり、他の人に一歩想像するゆとりある気持ちを持てるようにしていきたいなと思っています。

周りの人のマインド変わることで、安心感が生まれ、心理的安全性が生まれて、当事者の勇気が一歩踏み出せるようになって、それが継続していけば、社会が変わると思っています。

筆談ボードを置きましたとか、音声認識を活用していますとか、ダイバーシティ研修を受けました、みたいなところで終わってしまうと、人の心がそこになかったら、それらは有効に使われないわけですね。ツールはあくまで対話が支えるものなので、４Ｈｅａｒｔｓはそっちのほうにスライドできる存在でありたいと思っています。

昨年の活動としては、雄三通りをコミュニケーションストリートにしようということで、プレンティーズさまと実証実験をしたり、神奈川大学との共同研究として、スズキヤ鵠沼店で実証実験をしました。その模様がＮＨＫで密着取材を受けました。今年は、茅ヶ崎店で発話ができないご主人がどうやってまちの人にお酒の説明ができていくのかというのをサポートしています。

また、月曜だけランチの提供をしていまして、私は注文をとるので、言っていることがわからないから、指差しで注文してもらえるように、指差しメニューの開発をしています。河野太郎大臣も食べに来てくださいました。

１２月の市議会一般質問にも取り上げていただいたり、１月には市長と面談をさせていただきました。市の窓口改善を提案しているのですけれども、まずは認知をということで、研修をしてくださいということでした。

そういった今までの様々な活動を一つ一つコンテンツにして、全てスローコミュニケーションブランドとしてカスタマイズしました。そのために、今回、スローコミュニケーションのホームページ制作費の申請が大半になっています。

今年は、４Ｈｅａｒｔｓは、この事業と収益ポイントとしての企業研修事業に力を入れていこうと思っています。なぜこの事業なのかといいますと、子どもたちが使いやすいことは、障がい者も使いやすいのですね。バイアスがかかっていない子どもならではの新しい視点で改善を見たり、バイアスのかかっていない人づくりというのも大事だと思っています。

既に聴覚障がい体験は何回かやっていますけれども、１人で孤立して寂しくなってしまったとか、反響音で距離感を把握していたら、歩いたり、階段を下りたりするのが怖いという声もありました。

もう一つ、企業研修。これは、複数の企業にアンケートを実施しまして、当事者とその周辺の人との間に、理解度とか貢献度の認識を比較しましたら、大きくずれがあるというデータをとりました。だったら、そこをつないでいく存在になっていきたいなと思いました。

この事業のカリキュラムの中には、スローコミュニケーションをテーマにして、自分たちでできるような仕組みをつくっていきたいなと思っています。昨年、青年会議所にもお世話になったので、様々な今までのつながりと連携していきたいなと思っています。

茅ヶ崎でもこのようにかかわりあいます。他にも、いろいろな企業とつながっていまして、どんどんこれから広げていきたいなと思っています。以上です。

○事務局

４Ｈｅａｒｔｓさま、ありがとうございます。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問がありましたら、お尋ねください。いかがでしょうか。コメントでも何でも構いませんので、ぜひよろしくお願いいたします。

○原田委員

手話、よくわかりました。

スライドでよく見えなかったのですけれども、そもそも４Ｈｅａｒｔｓが求めていらっしゃる事業活動全体で見たときに、収益部門もちゃんと確保して独立採算でやっていくという理解でいいのですよね。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）

はい。

○原田委員

その場合、主な収入源はどの部分で求めていらっしゃいますか。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）

企業研修とブランドコンサルというところになっています。

○原田委員

それは、今、何か実績はあるのですか。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）

これから、花王と一緒に研修をつくっていけないかという話をしているのと、あと、リコーと一緒に業務提携までいけるかどうかは少しわかりませんが、そういうところを模索しています。

○坂田委員
　たくさんのコンテンツを用意しながら令和４年度動いていきたいということで、プレゼンを興味深く拝見いたしました。今回の市民活動げんき基金補助事業ですけれども、具体的には、ホームページのスローコミュニケーションプロジェクトサイトの制作が今年度主な事業と解釈してよろしいでしょうか。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）
　そうです。

○坂田委員
　多彩な事業コンテンツを用意されているということですが、今、構成人数は３名ということなのですけれども、この３名の皆さまの役割、どんなふうに今後この方々がどういうプロジェクトの中にどうかかわっていくのか、メンバーを増やしていく予定があるのかどうか、その辺の組織体制のことを伺ってよろしいでしょうか。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）
　現在は、私と津金と、もう一人、手話通訳の方がいらっしゃるのですが、あともう一人増やす予定で、ＥＴＩＣという団体に８カ月間密着していただいて、伴走してくださった方がおりますが、その方を理事に招聘できないかなと今考えております。また、ＲｅＢｉｔというＬＧＢＴＱの大きな団体の代表の方にアドバイザーに入っていただくことになりました。
　組織としてはまだそこまでなのですが、それとは別に、先ほどお見せした茅ヶ崎で様々なつながりがある方々を中心に、スローコミュニケーションの実行委員会がありまして、そこは１３名くらいいらっしゃいます。その人たちを巻き込んでスローコミュニケーションの、例えば広報活動だったり、それとは別に、言語聴覚士を目指している専門学校に通っているボランティアを２人、高校生が２人、この４人のボランティアチームがおりまして、その人たちがＴｉｋＴｏｋだったり、インスタグラムで発信していくのを支援してもらう予定です。

○坂田委員
　情報発信ですとか、アドバイザー、すごく重要なメンバーなのですけれども、これだけ多様な取り組みをしていくということになると、組織の事務方、体系ですとか、事務整理をする方が必要だと思うのですが、それは今、那須さんがされていらっしゃるのですか。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）

事務のほうは湘南スタイルがサポートに入ってくれています。

○坂田委員

今後、いろいろな連携でやっていかれるのはとても心強いとは思うのですけれども、法人になっているので、事務方を今後充実して、ご自分の団体の中で運営ができるような組織づくりが事業を行う中で大事な部分かなと思うので、その辺も同時並行的に充実させていけるといいかなと思いました。頑張ってほしいと思います。

○山田委員長

皆さまがコメント、質問を考えている間に私から１つです。４Ｈｅａｒｔｓの那須さん、津金さんのコンビでの申請は数回あって、この企画を教えていただく中で、毎年、かなり熱量のあるというか、パワフルな、そして本当にスピード感のある取り組みをしてくださっていると感じます。こうしたユニバーサルな社会状況をつくり、これをまちづくりに生かしていくという方向性については、大変貴重な、素敵なものだなといつも感じています。

ここと連動して、今回改めてホームページコンテンツを整理し、これをブランド化して統合するということなので、恐らく、これまでの活動のＰＤＣＡのサイクルで言うとチェックの段階で、いろいろと気づいたり考えたことがあったのではないかなと思います。そのあたり、つまり、ホームページ化につながるような４Ｈｅａｒｔｓの中での議論とか、情報をこのように振り返ってみました。それで、今回の必要性を描いてみましたという補足の説明があるとなおわかりやすいので、お聞かせいただけませんでしょうか。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）

プレンティーズでアイスクリームを販売されていますけれども、そこで指差しメニューの改善をやっていますとか、あとは、自分のつくってみたメニューだったり、コミュニケーションボードだったりを置きますというだけだと、結局それは、例えば、スターバックスで指差しメニューを置いてくださいとお願いして、既にそれはサイレントストアと言って、聞こえない人たちが働いているスターバックスがあるので、そこに指差しメニューは既にあったので、それを置いてもらったのですね。後日行ったら、「指差しメニューありませんか」と言わないと出してこなかったという状況がありまして、それはなぜ起きるのだろうと思ったら、必要性を従業員の方が認識していなかったりとか、あと、何でその人には助かるのかという部分もありますし、使いやすさも含めて、結局は人の心だったり、そこになければ、そのツールは使われないのだというところで、まずは心理的なところ、それから、なぜそれが必要なのかという知識を紹介していくというのが必要なのかなと思っています。

○山田委員長

そうすると、そういった仕組みの内側や外側にある狙いや意図や目的がきちんとコミュニケートされていく必要があるので、それを支えるもう一つのツールとして、今回、ホームページが大変重要であるというような狙いだということですかね。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）
そのとおりです。

○山田委員長
よくわかりました。ありがとうございました。

○貴島委員
私どもも企業に勤めていますと、確かに耳の聞こえない方、人間関係でコミュニケーションできているのですけれども、コロナ禍でマスクをかけたときに、我々も人の感情がすごく見えない部分があるのです。ましてや、今の状態だと同じような条件の部分が多いのかなと思うのですけれども、もっとそれ以上に困っていらっしゃるのですかね。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）
とても困っていて、働いている先でマスクをつけて、みんながマスクをつけるようになったので、職場の中でもコミュニケーションがとれないということで、メンタルを崩して仕事をやめている方もいます。

○貴島委員
そうでしょうね。お察しします。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）
高齢の方が、例えば、郵便局で郵便局員の方の話していることがわからなくて、筆談でやりとりをしていて、後ろに長蛇の列ができていて、おばあちゃんが一生懸命ごめんなさい、申しわけございませんと謝っているシーンも見ましたので、そこも含めて、どうにかならないかなと思ったりもしています。

○貴島委員
そういう意味でも情報発信というのは大事なので、よろしくお願いしたいと思います。

○山田委員長
それでは、時間ですので、質疑応答は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

４Ｈｅａｒｔｓさま、ありがとうございました。

では、続きまして、「心の詰まりを取ろう　怒りを知る『アンガーマネジメント講座』」につきまして、マザーアース茅ヶ崎さまよりご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）

マザーアース茅ヶ崎と申します。今回、参加させていただいてありがとうございます。

マザーアース茅ヶ崎の歩みについて、簡単にご紹介させていただきます。

マザーアース茅ヶ崎は、２０１８年、推進協とか社会福祉協議会とか自治会などの支援団体の顔見知りの女性たちが、地域の多様な問題について、もっと愛情を基本に考えて対処できればいいのにね、ということから発展しました。

最初に、なぜ防災だったか。ラブアクション、ベビーバギーサミット、このように、最初に防災から取りかかったのですが、なぜかといいますと、きっかけは、東日本大震災での大川小学校の悲劇と釜石の奇跡です。学校管理下で、災害時、両校になぜこれほどの差が生まれなくてはならなかったのか。両校の組織の違いは何かを考えたからです。もし茅ヶ崎に同じような災害が起きても、同じことが起こらないように、まず取り組むべきは防災だと考えました。

すぐに大川小学校の現地調査、石巻防災対策課、教育委員会、遺族会の方、弁護士などからお話を伺い、内容を持ち帰り、茅ヶ崎市の防災対策課、教育委員会、消防などを回り、比較調査いたしました。

その結果、マザーアースなりに結論を出しました。６年間の防災生活から導き出したものは、安心・安全は、信頼の上にしか成り立たない。信頼は、心理的安全性の確保から成り立つ。今、全ての組織、社会に必要なのは、多様な人が安心感を持ち、積極的にかかわることではないかということです。

では、心理的安全性が確保されるとは、誰でもが自然体でいられて、恐れがない。互いを尊重し、コミュニケーションが豊か。あらゆるコミュニティの中で自分の確かな居場所があると感じられる。自分の考えたこと、感じたことを安心して言うことができる。不必要な怒りが少なく、互いを理解しようとする言動になるなど、多くの利点があります。

もし、大川小学校を取り巻く行政、教育委員会、保護者会などの組織内であのとき心理的安全性が保たれていたら、これほどの悲劇は起こらなかったのではないでしょうか。信頼と心理的安全性の確保が必要なのは、防災だけではなく、家庭、学校、会社、社会、コミュニティなど、年代や場所を問わず、人と人との関係性が存在するところには必要だと考えております。

そのために、私たちが心理的安全性が確保されているとは言えない２０２２年の社会に

向けての新しいチャレンジ、怒りの本質を知り、コントロールする講座をスタートすることにいたしました。

先日、防災ラブアクション、この絵から言うと左側ですね。こっちが防災ラブアクションのときです。このときは、茅ヶ崎市の災害被害想定を作成なさっている東京大学の加藤孝明先生をお招きして、自治会その他を中心にしまして、百何十名の方たちが参加していただいて、大変盛大な会になりました。

そして、今回、あれから何年もたち、誰もがつながる心理的安全性への確保に向けてという今回の講座、怒りの本質を知り、コントロールしようというアプローチからの講座を開きました。

参加の皆さまは、非常に熱心で、参加募集２０名限定というところで、４日で２９名、３０名近い方が応募してくださり、しかしながら、オミクロンで１カ月ずれ込むということが起こりましたが、最終的に２０名を迎え、ちょうどいいサイズで無事に講習を行うことができました。

怒りのマネジメントの講座においても、防災において避難所運営に怒りのコントロールも必要ですよ。コミュニティを維持していくのにも怒りのマネジメントが必要ですよということもお話しする機会がありました。今、防災のほうでかなり問題になっている災害関連死に私は非常に注目していて、そのために避難所運営とコミュニティの喪失ということをどうにか防げないかと考えております。

避難所は、被災し、不安と心細さで心を痛めている人たちが身を寄せ合う場所であり、人と人との関係性への配慮が何よりも必要な場所だと考えています。どんなときよりも、どんな場所よりも、心理的安全性の確保が必要。今後は、茅ヶ崎市全域の広域避難場所を検証したマザーアース茅ヶ崎だからこそ、茅ヶ崎市全地区の避難所運営委員の皆さまに、ぜひ怒りの本質を知るアンガーマネジメントの事前研修の必要性を訴えていきたいと考えております。

今現在、私はまちぢから協議会の防災部会に入っております。避難所運営の大切さ、重要さも十分感じております。

○事務局

山田さま、時間になりましたので、まとめをお願いいたします。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）

マザーアース茅ヶ崎と今後私たちは何をやりたいか。信頼と安心で人がつながることを目指し、怒りのマネジメントと心理的安全性の確保を１つの入り口として、多様性を認め合う重要性を広める講演会、イベントを中心に、男女共同推進３団体合議体チームとして、誰もが心地よく生きるためにニューチャレンジしていきたいと考えております。終わります。ありがとうございます。

○事務局
　ありがとうございました。
　それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長
　それでは、質問がある委員はお尋ねください。いかがでしょうか。

○海野委員
　細かい質問なのですけれども、マザーアース茅ヶ崎の規約と今回の収支予算書を見ているのですけれども、規約には、この会は寄附金によって運営するとなっていて、収支予算書によると、団体収入の中にマザーアース茅ヶ崎会費よりとなっているのですけれども、この団体としては、会費も徴収しているのでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　講座をやったときに１人３００円の会費をいただいています。参加費です。

○海野委員
　団体収入は参加費があったということなのですね。そうすると、基本的には寄附金によって運営しているということでよろしいのですね。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　今まではそうやってきました。

○海野委員
　年間どのくらい集まっているのでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　年によって違うのですけれども、イベントをやって、少し赤字が出るくらいでどうにかやってきました。イベントの大きさによって変わってくるので、今、過去のあれを持っていないので、明確なことが言えないのですが。

○海野委員
　わかりました。寄附金というのは、要は、イベントでの収入ということでよろしいのですね。イベントをやった際の収入が寄附金という形になっているのですね。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　そうですね。イベントをやるときに、これくらいかかるといったときに寄附をいただくという感じです。

○海野委員
　今回、市民活動げんき基金補助事業は初めての申請ですよね。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　はい、そうです。

○海野委員
　支出の部を見ると、物品費にお金をかけられているので、初期投資が必要なのだと思うのですけれども、次年度以降、初期投資がなくなると、違った意味での活動ができるという感じなのでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　そうですね。今はとりあえず機材が必要というところなのですけれども、いろいろなことを今後広げていきたいというときに、必要になってくるかなとは思っています。次の年度からは。

○海野委員
　わかりました。ありがとうございます。

○坂田委員
　令和４年度ですが、企画書を見ると、４月から講座を５回ほど計画されているのでしょうかね。事業計画書を読ませていただきますと、４月、５月、６月、７月、８月と講座をやられるということだと思います。１回、参加人数が３～２０名となっておりますが、収支予算書を見ますと、参加費が３００円×２００人となっているのですね。この計画から見ると、１回の人数が２０名ですと、５回で１００人になるのですが、２００人とした目算というのは何かありますか。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　事業計画書に書かせていただいているのは、８月までの内容なのですが、実際には来年の３月まで、場所はとってあるので、内容をまだ確定していないというだけのことです。

○坂田委員

では、毎月１回、１２回やって、毎回２０人、満席で２００人迎えたいというご希望ということですね。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
５０人以上入る場所なのですが、２０人がこの内容で話すと限度だなというのが先日わかったので、２０人ということで決めてやっていきたいなと思っています。

○坂田委員
２０１８年に設立されて、これまで様々な活動をされてきたことを、今、ご発表の中で伺ったのですけれども、これまで、いろいろな補助金、助成金を受けたことがなくて、今回初めて市民活動げんき基金補助事業を申請ということでいらっしゃるのですね。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
はい。

○坂田委員
そうすると、これまでの活動の経費というのは、先ほどの質問と重複してしまうのですが、ボランタリーな中でイベントをして、わずかながら参加費をいただいて、それでやってこられたという状況なのでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
そうですね。まず、人に関しては、皆さま、先生も含めて全くのボランティアでやってくださっているので、賛同していただいている人たちが全くのボランティアで動いてくださっています。そして、印刷は今すごく安くできるところが様々ありますので、その中で一番安くできるやり方をとって、いろいろな表示用も市の後援をとって、コミセンに張っていただいたりとか、ありとあらゆることはやっております。

○坂田委員
講師の方々もご用意をされていると思うのですが、その方々は皆さまボランティアで講師をされていらっしゃるということなのですね。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
今後、内容によって講師の方たちも変わってくると思うのですが、かなりいい先生たちがいらっしゃって地区防災計画学会というところがありまして、そこに私も入っているのですが、そこの先生たちは手弁当で何でもやってくださるような先生たちがそろっている。防災に関してはそうですし、それ以外のことは、だめもとでお願いに行くという姿勢でや

ってきたので、できる限りやろうと思います。

○坂田委員
　ネットワークはすごく大事だなと感じていますので、ぜひ前向きに取り組んでいただけたらと思います。ありがとうございます。

○山田委員長
　かえってあげ足とりのような形になってしまったら申しわけありません。言葉の意味を解説していただきたいなというところがありますので、質問いたします。
　まず今回の重要なキーワードの一つとして「アンガーマネジメント」というのが掲げられています。認識の間違いがあればご指摘をいただきたいのですが、主に広く社会的に共有されている実態としては、「私の心のコントロール」という理解でよろしいですか。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　怒りというのが、誰かとか、外からの事象ではなく、本当は自分の中にあって、だからコントロールできるのですよと、簡単に言えばそういうことなのですけれども、それを皆さまにすることによってということですね。

○山田委員長
　これが次の段階で、「心理的安全性の確保」というところになると、よりコミュニケーション的、より対人的関係性の中での話になってきます。これは実際の講演の中で、どんなふうに２つのキーフレーズのつながりを一般市民の方に紹介するのか、もう少しだけ具体的にお知らせいただけるとわかりやすいなと感じました。そこを解説していただいていいでしょうか。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　わかりました。実は怒りのスイッチが入るときというのは、自分の中にある「べき」ということなのです。ナントカであるべき。自分の中である信念とかいうものですね。こうのはずでしょう。そうでないとおかしい、というものが自分の中にあって、それぞれの人の中にあって、それは全部間違いではないのです。だけれども、違う人たちが集まっている組織とか会議とかの中で、それをコントロールしないと、常に言い合いになったり、そこで誰かが怒ると雰囲気が悪くなる。そういうことが今現状として組織の中で多々起こっているので、その組織に心理的安全性をもたらしていないということなのです。
　なので、そこの入り口を１つとして、その組織みんながそれを自覚することによって、その組織内に心理的安全性が保たれると、速やかな世代交代とか、例えば、今、５年いる年上の方たちが、あと５年たったら変えていかなければいけない。そのときに若い人たち

が入ってこられない。自分ごととしないというのは、そこにあるボトルネックというものがある。そこを外していくには、１つの方法としてアンガーマネジメントということから入っていったらどうでしょうかということでした。

○山田委員長
　それを今回の研修プロジェクトでは、再婚ですとか、ＤＶですとか、避難所という事例を具体的に挙げながら、多様な人々が集まる場面を意図的に設定して、そういうところでアンガーマネジメントと心理的安全性の確保を、そういう事例に基づいて講習や研修を展開されていきたいということですね。

○マザーアース茅ヶ崎（山田）
　そうです。第１回目だけはアンガーマネジメントというものだけだったのですけれども、それにプラスしてやっていきたい。

○山田委員長
　大変よくわかりました。ありがとうございます。
　これで時間が大体ちょうどくらいだと思いますので、質疑応答を以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局
　マザーアース茅ヶ崎さま、ありがとうございました。
　では、続きまして、「赤ちゃんとママのためのコンサート～こどもから大人まで楽しめるコンサート～」について、湘南Ｌｉｅｂｅさまよりご説明いただきます。よろしくお願いいたします。
○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　こんにちは。湘南Ｌｉｅｂｅの三輪と申します。
　私たちの団体は、音楽を専門として学んだ仲間が、音楽で社会奉仕をする目的で、生演奏をしている団体です。２００５年４月に発足してから、様々な場所で音楽の生演奏をしてきました。
　子育て支援活動としまして、２０１７年から「赤ちゃんとママのためのコンサート」を始めました。助産師のご協力を得まして、音楽の提供と相談会をあわせて行っています。２０１８年、２０１９年に市民活動げんき基金補助事業の補助金をいただきまして、活動の幅を広く進めることができました。リピーターの赤ちゃんとママが増えてきた矢先に、現在も続いておりますコロナウイルスのまん延で演奏活動を中止せざるを得なくなりました。そして、このたびは、感染防止対策をとって活動を再開するために、市民活動げんき基金補助事業に再度応募いたしました。

このコンサートの必要性ですけれども、赤ちゃんを抱えながら、ママたちは子育てで社会から孤立した思いを感じているという記事を新聞で目にいたしました。また、コロナ禍でますます外に出る機会が少なくなり、子育ての情報も得ることが少なくなっています。ネットだけの情報ですと、しばし悪い方向に考えがちになる恐れもあります。助産師との話で不安を取り除いたり、同じ年ごろの赤ちゃんとの触れ合いをしながら、一緒に音楽を楽しむ共有の空間で、赤ちゃんとママの心のリフレッシュができると考えております。また、ママ友をつくるという場所にも利用してほしいと思っております。

ここの図ですけれども、これが、先日、後ろの資料にも載せましたけれども、ベビーカレンダーとか、ミキハウスベビークラブのほうからとりましたグラフです。孤立を感じる、ときどき感じるとか、家族以外の方のコミュニケーションがとりづらいとかになっております。

私たちができることということで、生演奏の提供、お友達づくりの関係、孤立しがちな環境から外へ、悩みを相談できる窓口にということで、この４つが私たちができるのではないかなと考えて行っております。

ここで余談ですけれども、このようなコンサートに来たときに、ときどき皆さま、心の中のひとり言といって、例えば、何か曲が流れていて、あ、この曲好きとか、この曲、聴いたことがあると、ちらっと心の声が出てしまったときに、お隣の人に聞こえてしまって、私も好きな曲ですよ、いい曲ですよね、なんて反応が返ってくると、次に話すきっかけにつながると思うのです。お友達に進展しなくても、その瞬間、なぜだか心が穏やかになると感じませんか。同じことを感じている人と出会ったとき、とてもうれしい気持ちになります。赤ちゃんとママのコンサートでも、そのような効果が生まれることを期待しているのです。私も悩んでいます。うちの子もそうなのです。そんな気持ちを声に出せるような会場になればよいと思っております。

コロナ禍の中で行うコンサート、感染防止対策としまして、換気、手指の消毒、マスクの着用、検温、ソーシャルディスタンス。そして、小ホールの場合ですと、ドアを開けたまま、前３列は客席をクローズ。ミニホールの場合は、３０分で換気をとるなどして、人数を半分にして行う予定でおります。

これは、プログラムです。会場がミニホールの場合は、狭いので、人数も少なく、今回は３２組かな。それで全部。子どもも合わせると６０人になるのですけれども、状況によりましては半分になってしまう可能性もあります。

そして、下が小ホールで行うもので、こちらは音楽の生演奏しかできませんので、これだけを行います。

２０１９年までは着実にコンサート活動を行っておりました。自主コンサートは年２～３回と、あと、依頼コンサートも２～３回あったので、年に６回くらいコンサートをさせていただくことができました。会場の様子を見てわかると思うのですけれども、たくさんの赤ちゃんやママにいらしていただき、本当に皆さま喜んで帰っていかれました。

２０２０年は、コロナ禍になりましたので、私どもでＹｏｕ Ｔｕｂｅ配信とか、ＹｏｕＴｕｂｅで音楽の生演奏、また、助産師のお話を撮りまして、そちらを限定で配信いたしました。

２０２１年６月に、頑張って赤ちゃんとママのコンサートを１回だけ開催させていただきました。その後はまたオリンピックとかで全くコンサートができなくなりましたので、行っておりません。

２０１９年１２月に行いましたクリスマスコンサートの動画を用意してあったのですけれども、出ないですね。小ホールで行いました演奏の風景と音が流れていて、今、出ないので申し上げますけれども、会場からは自然に手拍子がなり、子どもたちが泣いたり騒いだりしている声が入った動画を皆さまにお届けしようと思ったのですけれども、映りませんが、そのような感じでコンサートを開催させていただきました。

２０２０年、２０２１年とコンサートが行われていない状態です。そうしますと、この２年間の間で赤ちゃんが既に今の段階で２歳になっていますよね。今まで培ってきた赤ちゃんとママたちがみんな卒業して、幼稚園に上がられてしまい、今年度からはゼロからのスタートということになりました。そこで、市民活動げんき基金補助事業の補助金をいただきまして、より多くの幼稚園とか小児科とか産婦人科のほうにお手紙を出して、また再開いたしますというご連絡をして、より多くの赤ちゃんとママに楽しんでいただけるように、また、ママだけではなくて、パパとか、最近は祖父母の方もよくいらっしゃいますので、そのような方に来ていただいて、楽しんで帰っていただけることを期待しております。以上です。ありがとうございました。

○事務局

湘南Ｌｉｅｂｅさま、ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問がありましたら、お尋ねください。お願いします。

○原田委員

２点ほどお伺いしたいのですけれども、１つは、お母さんたちの交流の場にもなっているということで、こういうところで交流するといいなと思ったのですけれども、促すような仕掛けとか工夫は何かされているのでしょうか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）

今までやっておりましたミニホールという文化会館の練習室１ですけれども、床にフロアマットを敷きまして、そこに赤ちゃんとママが地べたに座る感覚で座ってもらって、お

隣同士とお話ししたり、また、子どもたちが自由に動けるという形にしましたので、近辺に座った方とお話がよりよくできるということと、あと、助産婦を囲んで２グループ、３グループくらいになりまして、皆さまの声を拾い上げるということもいたしました。

○原田委員
　この会は、スタッフは何人いらっしゃるのですか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　私たち湘南Ｌｉｅｂｅ自身は、全部で９人ほどですね。うち役員が３人とスタッフ３人です。そこで、これはボランティア演奏団体なので、コンサートのときにお仕事が入っていないメンバーを集めて、３人から４人編成で行っております。

○原田委員
　外部演奏者と内部のスタッフの演奏者で謝金を分けているという感じですか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　謝金は、メンバーが足りないときにゲストをお呼びして。他にお仕事をしていたりするので、全員が集まれないときがありますよね。会に所属しているメンバーは、支払いは交通費のみです。

○原田委員
　外部でお願いする場合には謝金を支払う。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　そうです。

○原田委員
　助産師は１回１，０００円でやってもらっているのですか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　そうです。本当は受け取らないとおっしゃっていたのですけれども、それでは申しわけないので、交通費として１，０００円だけお渡しさせていただいています。

○原田委員
　封詰めしたり、仕事をするときの賃金というのは、どこかの団体にお願いしているのですか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　いいえ。このスタッフと外注のアルバイトを雇いましてお願いしています。

○原田委員
　それは、音大とか、音楽好きな方なのですか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　まあ、そうです。音大ではなくても、音楽が好きだったり、私たちの活動をサポートしてくださる方ですね。例えば、コンサートのときの受付を手伝ってくださったり。コンサートをするにはたくさんの人が必要ですので、それはメンバーの中では補えませんので、外からお願いしております。

○原田委員
　会員の中でやってくださる方はもちろんですけれども、会員ではなくても、会員みたいにサポートしてくださる方が結構いらっしゃるということなのですか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）
　そうですね。お声かけすれば、あいていれば手伝っていただく方は何人かいます。

○原田委員
　わかりました。ありがとうございます。

○坂田委員
　コロナ禍の中でママが孤立しているという２年間を私も身近で随分拝見しておりまして、本当に残念な２年間ですけれども、それでも小さくても活動を続けられていらっしゃるというところに非常に敬服をいたしました。
　私は、ただ音楽、コンサートだけでなく、助産師、看護師をこの場にお連れして相談対応の場をつくっていくというところがすごくいい活動だなと思いました。私はコメントになって、質問でなくて申しわけないのですけれども、通常だと、コンサートをやって終わりということなのですが、そこにこういった方々を招聘して、しっかりママたちのコミュニケーションをつくる場を設けているというところが非常にいい活動だなと思いましたので、ぜひ令和４年度は、予定している活動が本当に実現できるといいなと思っております。応援しておりますので、頑張ってほしいと思います。ありがとうございます。

○山田委員長

では、私から。これも今回の企画そのものには直接関係しないかもしれませんが、実はこうしたテーマは、音楽が持つ多面的なすばらしさとか機能を表現する中で、子育て親子の社会的な接点というところにつながっているという企画としてはすばらしいものですし、大変興味深いものだと今回も感じました。

そのように考えますと、皆さまの団体が市民活動団体として、むしろ横に連携してつながっていくことによって、その目的がより果たされるような印象も受けたのですね。つまり、こうした子育て支援団体の方の相互協力を踏まえて考えれば、様々な広がりや可能性が見えてくるので、自分自身が大変興味を持っているところです。そこで、過去のご経験から、茅ヶ崎市内のこうした市民活動団体の協力や声かけなどを通じて、何かうまくいったりとか、このようなところがうまくいけばいいなと思ったりしたところなどがあればご紹介下さい。そして、今後の活動の発展や展望をお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）

音楽は何とでもマッチングできると思うので、何かイベントのときにお声をかけていただければ、音楽とコラボという可能性は広がっていくと思います。また、私、今のところは、子育ては、赤ちゃん、小さいお子さんが対象なのですけれども、私たちボランティアとして、児童施設もボランティアで演奏に伺ったりしているのですね。ですので、そちらのほうをサポートしている団体とも一緒にコラボできていくと思いますので、その辺は、市民活動げんき基金補助事業のプレゼンに出させていただいて、いろいろとつながっていくといいなとは思っております。

○山田委員長

誘導質問みたいな感じで申しわけなかったのですけれども、そういうプラットフォームとして音楽を有効に生かしてくださるという思いが一番聞きたかったところです。その辺を、今の説明で聞くことができて大変ありがたかったです。すみません、恐縮です。

それから、これも説明の中に少し含まれていたと思うのですけれども、過去のこうしたコンサートを通じて、自分自身もこの団体に所属してみたいとか、かかわってみたいと思う方がいらっしゃったのではないかと思いますが、皆さまの努力で皆さまの団体のメンバーが増えたとか、増えていく可能性を感じたとか、そういうご経験をお持ちでしょうか。

○湘南Ｌｉｅｂｅ（三輪）

コロナになる前は、演奏することができましたので、メンバーも広がっていきました。ただ、残念なことに、この２年間のコロナで、メンバーを抜けられたりとか、自分自身の生活が大変なので､ボランティアは今はお休みという形のメンバーも出たことは確かです。どうしようもないことですね。コロナが終わらない限りは。特に私は歌なので、飛沫の心

配がありますので、なかなかそういう場所で歌ったり演奏することが厳しい状態です。

○山田委員長

いずれにしても、そういった状況の中でのリスタートですから、そこに経済的な支援だけではなくて、茅ヶ崎市の市民活動げんき基金補助事業を使ってコンサートを開いていますというのは、重要な宣伝とか、紹介のためにつながってくるというところも、先ほどのご説明の中に含まれていました。そういったところも、私たち委員の中では、検討のための情報として使わせていただきたいと考えています。

では、そろそろこれで時間だと思いますので、質疑を以上とさせていただきます。

この後、総括質疑があります。今、最後のところで、先出しのような形で団体間の連携ですとか、市民活動げんき基金補助事業の仕組みの中で横のつながりが増えると良いということを話しました。このような話題について、この後たくさん議論していきたいと思っております。どのような形でも結構です。このような団体にこのようなことを聞いてみたいとか、このような団体のこのような工夫を紹介していただきたいというところがありましたら、次の時間に積極的にコミュニケーションを取っていただければと考えております。

報告に対する質疑応答は以上とさせていただきたいと思います。

一旦、司会を事務局にお返しいたします。

○事務局

湘南Ｌｉｅｂｅさま、ありがとうございました。

これで予定しておりました９事業の発表が終わりましたので、これから総括質疑に移りたいと思います。総括質疑につきましては、今、山田委員長からご説明いただいたとおりでございます。会場内で委員の方だけでなくて、団体間、また傍聴の方も含めて意見交換をしていただければと思います。

それでは、総括質疑の進行は山田委員長にお戻ししたいと思います。終了予定は、当初の予定どおり１６時５０分とさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、このコーナーにつきましては、私が進行役を務めさせていただきたいと思います。

既に多様性野菜活用支援協会の方の手が挙がっていらっしゃいまして、トップバッターとしてご発言いただけると認識してよろしいでしょうか。

○多様性野菜活用支援協会（飯田）

他の団体の発表を伺って非常に興味深かったのと、横に連動したほうがいいかなと思っ

たのは、まず、那須かおりさんの４Ｈｅａｒｔｓさん。私は、国立のスターバックスは手話の方がやっているのですが、実際に行ってみまして、ＮＨＫでも取り上げられたので、これはすごくいいなと。我々の多様性野菜の活動というのは、基本的に料理教室から始まるのですが、最終的にはサードプレイスということで、空き家を活用したレストラン・カフェをやって、地域に住んでいる人たちが気軽に来られるようなコミュニティスペース。病院とか図書館に行ってもらうとわかると思うのですけれども、高齢の方がすごく集まっているのですね。ここしかないのかなというくらいのところなので、そういうところの受付とか、実際、筆談とか、いろいろな可能性があるので、我々が考えているのは、多様な人材の採用ということで雇用を生み出すということを考えていたので、その実現までは時間がかかってしまうかもしれないですが、いわゆる運営側に入っていただいてやっていただくというのは可能性があるので、すごくいいかなと思っていました。

それから、ＢＥＮＩＲＩＮＧＯの方お２人は大学４年生ということで、もうすぐ社会人になると、またもう一つのスタートに立つと思うのですけれども、今は副業、兼業が普通になってきている社会で、６０歳を超えても兼業、副業をやっている人がたくさんいらっしゃいます。なので、メインの仕事をやりながら、あいた時間でやるということで活動を継続されていくというのが一番いいのかなと思います。

そうなると、どうしても本業に力が入ってしまうのですが、力を抜いた形で並行してやっていったらいいかなと。我々は逆に言うと、メンバーを募集するに当たって、知っている人という形で、ＳＮＳに上げていくというつもりはなかったのですが、フリーペーパーの活動であれば、そこに掲載していただくとかいうことも含めてやっていただけたらなということで連動ができるのかなというのは感じました。

なので、いろいろな取り組みがあると思うのですけれども、横のつながりというのを、何か一つの組織化ができたら、それぞれ、多分、社会課題とかを幾つか抱えて、全員活動されていると思っているので、よいのかなと感じています。

茅ヶ崎市は、幸いなことにすごく人気がある都市で、東京２３区から移り住んできた上昇率１番ですね。たしか第１位は流山なのですけれども、上昇率はトップなのです。非常に住みやすいところであります。なので、こういうところでいろいろな全国展開できたらいいかなというのは感じていました。

那須さんがやられているのも、少し伺うと、３名でやっていると。全国展開の可能性を感じたので、例えば、ＮＨＫでも結婚式場で、最後、造花を全部捨てるのですけれども、それをキャンドルに変えるということをやっているのは茅ヶ崎市の方なのですね。なので、いろいろな取り組みがあるので、そういうのを連動してやっていったらいいかなという形ですかね。

それと、名前は忘れたのですけれども、結婚式場のフラワーをやっている方は女性の方で、趣味から始まっていったのですけれども、今は全国的組織になりました。すごいなという気はしていたのですけれども、そこも、変な話ですけれども、作業をしてつくるとい

うこと自体、しゃべってやるわけではないので、そういうところとも連動していったいいのかなと感じた次第です。

○山田委員長

今、トップバッターとしてご発言いただいた中に、多様な人材づくりとか、サードプレイスづくりということで、まずは那須さんにダイレクトに話題の提示がありました。連携可能性がありますかということだったのですけれども、こうした双方の協力関係とか連携づくりについて、那須さんの今お感じになっているところがもしあれば、ご発言ください。

○一般社団法人４Ｈｅａｒｔｓ（那須）

特に２つあると思っていまして、１つは、接客の場面、窓口ですね。そういうところで、例えば、中途失聴だったり、耳が遠くなったりすると、今から手話を覚えるのは大変だという声もたくさんあるのです。なかなか難しいので、筆談をやりたいし、例えば、スマホのアプリで音声認識を表示させるとか、指差しメニューで簡単にできるようになりたいとか、いろいろな声がありますので、そこをサポートすることが私たちはできると思います。

そして、２つ目ですけれども、スローコミュニケーションプロジェクトというのはいろいろなフックがかかると思っていて、例えば、スローコミュニケーション×防災だったり、スローコミュニケーション×何か。スローフードにスローライフにスローコミュニケーションを加えませんかというような言い方をしていますので、いろいろなところで掛け算していくというのはできると思います。以上です。

○山田委員長

それから、もう一方では、情報発信とか多面的情報提供については、これもまた様々な学び合い、教え合いの可能性がありますということでした。こちらについても、ＢＥＮＩＲＩＮＧＯのお二人にむけての話題だったと思います。何かリプライでもいいですし、自分たちのアイデアでもいいのですけれども、何かお感じになったところをご発言いただけますか。

○ＢＥＮＩＲＩＮＧＯ（阿部）

今回、皆さまのお話を伺って、私たち、環境に特化はしているのですけれども、地域の課題にも１つフォーカスを当てていて、茅ヶ崎という場所をよりよいところにしていくためにも、皆さまにいろいろな問題についてまずは知っていただきたいなと思っています。私たちがまだ知らないので、ぜひ知っていきたいなとも思っています。

様々な問題がいろいろな形でつまずいているとも思いますので、そのようなことを踏まえて、皆さまにぜひ取材させていただいて、フリーペーパーに掲載させていただいて、私

たちの読者の方たちも知っていただく機会を設けられたらなと思っています。

○山田委員長
　事務局の皆さま、その場合の取材請求がありましたら、事務局経由でご紹介いただくことは可能ですか。

○事務局
　もちろん可能ですし、あと、今日、オブザーバーでいらっしゃっているちがさき市民活動サポートセンターでも、そういったフェイスブックのグループだったり、そういったつながりも支援しておりますので、市としても協力できると思っております。

○山田委員長
　ということなので、相互に取材したいとか協力を連携したいというところがありましたら、事務局またはサポセンにお問い合わせいただければ大丈夫ということです。よろしくお願いいたします。
　他にも、今のような視点でも結構ですし、別のご質問、ご意見でも、今回のプレゼンテーションを聞いた感想でも結構です。他の団体の方、いかがでしょうか。せっかくなので、皆さまにそれぞれ発言いただきたいなと思っているところです。いかがですか。

○特定非営利活動法人ＳＵＰＵスタンドアップパドルユニオン（太田）
　今日、皆さまのいろいろな企画を伺って、すごく茅ヶ崎が楽しみな感じがしました。我々の団体は、サーフィンとか、今回、ＳＵＰというスタンドアップパドルボードを使った子どもたちへの企画ということで進めているのですが、茅ヶ崎なので、海で遊ぶ人間がいっぱい集まっていろいろな活動をしているわけですが、その中でいろいろな業種の人がいたり、普段は関係ないけれども、海だからみんなが集まるみたいなところがありまして、今日伺った内容は結構みんな知らないことだったりするのかなと、様々伺っていて思いました。
　我々のほうは、スタンドアップパドルを楽しむ人間が集まりながら、いろいろな人間が集まるフェイスブックとかホームページをつくっていますので、そちらのほうにご連絡いただくと、そちらからまたアナウンスしたり、いわゆる茅ヶ崎の文化としていろいろなことをされている、企画をアナウンスも一緒にしていきたいなと、今日感じましたので、フェイスブックでもＳＵＰＵと入れると出てきますので、ぜひご覧いただいて、そこにメッセージでもいただければ、うちのほうからもアナウンスしますし、茅ヶ崎として何かしら皆さまと協業できる部分もあるのかなと思いましたので、コメントさせていただきました。

○山田委員長

このあたりの地域内プラットフォームというか、情報プラットフォームみたいなところは、益永さん、もしご紹介いただけるところがあれば、せっかくなのでお話しください。見るだけの参加だけでは申しわけないので、サポセンの状況など、少しご紹介くださいませんか。

○茅ヶ崎市市民活動サポートセンター（益永）
サポセンの状況でしたら、私より新井さんのほうがいいと思います。

○茅ヶ崎市市民活動サポートセンター（新井）
どこか紹介するというところは特にはないのですが、市民活動げんき基金補助事業の団体だけではなくて、うちの登録団体全体で使っていただいているフェイスブック、サポートセンターのほうで、ちがさき市民応援団というものがあります。そちらに掲載していただくことは可能です。その他にも、こういう横のつながりというのは今後すごく大切だと思うので、非常に得意な団体がいらっしゃるのですね。そういうところの方に相談してみる。活動の分野は違っても、ファンの多い団体はいらっしゃるのですね。そういうところにこのような団体もあるよというのを紹介していただくと、また違った角度から入ってこられる方もいらっしゃると思うので、そういうのも利用していただけるといいかなと思います。

○山田委員長
そうしたマッチングもサポセンに伺えばご紹介いただけるということですか。

○茅ヶ崎市市民活動サポートセンター（新井）
そうですね。

○山田委員長
ウエブ上のマッチングだけではなくて、リアルに対面型のマッチングのサービスもしてくださるということですので、ぜひご活用いただければと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。
ここから先は、委員の方の感想でも意見でも結構ですので、いかがでしょうか。ダイレクトに団体ｔｏ団体の質問でも結構ですし、今回の全体の印象などでも結構です。ご意見を伺いたいと思います。

○大畑委員
私は、公募の市民ということで、今、委員活動に参加させていただいておりますが、全く勉強不足で知らないこともすごく多かったんですけれども、今回のプレゼン、事前の資

料を拝見したり、それぞれの皆さまのお話を伺って、活発に活動を皆さま頑張っていられるのだなということを改めて感じましたし、今回のプレゼンを経験して、私自身もいろいろ考えさせられるところもありましたので、今後もさらに勉強しつつ、皆さまの活動を応援したいと考えております。

知識のレベルがないので、質問できる状況ではなかったのですけれども、今日は参加させていただいて、とてもいい勉強になりましたので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○坂田委員

今日はありがとうございました。私は、日ごろ、平塚市で様々な団体の活動を応援させていただいておりますひらつか市民活動センターにおります。そして、他の市町の様々な助成金のプレゼンテーションに参加したり、審査会の経験もしているのですけれども、今日の皆さまのご発表を伺って、茅ヶ崎市は非常にすばらしいなと拝見いたしました。また、これらの団体さまの事業、まさに地域の課題を取り上げて活動されているなというところが実感として思っております。

平塚市も茅ヶ崎市と同じような課題に取り組んでいる団体がたくさんいらっしゃいます。２週間ほど前に平塚市でも補助金のプレゼンテーションが終わって、それぞれ、皆さま一生懸命申請書を書いてプレゼンに臨んで、それぞれ採択されたといううれしいコメントもセンターにお寄せいただいております。団体が元気で活動することがまちづくりにつながり、ひいては茅ヶ崎市がよいまちになるというふうにつながっていると信じておりますので、これからも皆さま横の連携も持ちながら、そしてちがさきサポートセンターのサポートも受けながら、ぜひ頑張って活動していただければと思います。私なりにも応援していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

○原田委員

皆さま、どうもお疲れさまでした。

１点、先ほどの話であったように、僕は田舎に学生とフィールドワークに行くのですけれども、そこで感じるのは、今までは大きな企業に就職して、そこで安定的な生活を得ることがいいことだと言われていたのですけれども、今は一本足打法というのが逆にリスクになっていて、そういうのを実感したのが、田舎でいろいろな事業を興していたり、移住した人がいろいろな活動をしているところを見て、さっきの話に通じるところがあるなと思ったのですけれども、趣味と自分の仕事が地続きになっていて、いろいろな仕事をかけ合わせながら仕事をしていたりする人たちというのがある種のリスクヘッジになったり、仕事と趣味の延長でやっているものが地域の貢献につながったりすることが結構あったりして、そういう意義というのがＮＰＯにもあるのだなというのを感じました。

もう一つは、例えば、障がい者を雇用するということを通じて、様々な人たちの居場所になっているということで言うと、全然文脈は違うのだけれども、最後の湘南Ｌｉｅｂｅの取り組みも通じるところがあるように感じました。どうしてもＮＰＯとか、あるいは福祉の活動というと、そういうバイアスで見てしまうところがあるのですけれども、少し視点を変えると、結構つながるところがすごく大きくて、活用できるものも、福祉の領域でもあれば、他の領域でもあったり、いろいろなアプローチがあるのだなと思いました。

例えば、労働者協同組合法という法律も来年施行されるのですけれども、少し視点を変えると、一番最初の多様性の事業の方はそういうのが逆にあったりするなと、少し視点を変えると、いろいろな可能性が出てくるように思いました。

私も今後とも勉強させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○山田委員長

もうまとめをしていただいたような感じになっているので、時間ですので、以上で総括質疑は閉めたいと思います。

今日は、皆さま、約２０分間のお話の中で、それぞれの団体にわりと共通点があると感じたのではないかと思います。那須さんのおっしゃるフックとか掛け算というところは、つながりとか連動という冒頭の飯田さんの議論に大きくつながるところがありました。これは、今後も、市民活動に通底するテーマの一つになっていくのではないかという気がいたしました。

それを支える重要なキーワードとして、情報共有ですとか、情報ツールとかがあり、具体的につながるための手段が市の中でどのように確保されているか、これらも今日のような会の参加者や私たちの取り組みの中で十分に充実させていくことができるということに、今日、気づくことができました。

最後に、原田さんのおっしゃるように、活動の多様性が見えるようになると、実は以前の勉強会でも同じように原田さんはご発言くださったのですけれども、公益性も多様性を持って立ちあらわれてくる。だから、従来の公益性というのはこういうものなのですよと決まった問題を、その枠の中で議論するのではなくて、むしろ、こういう活動の具体性の中で、ますます茅ヶ崎なりの公益性が立ち上がってくるというところは、たびたび気づかせていただくことができました。そして、今回も総括討議の中で、改めて自分自身が感じたところでもありました。ここは原田さんが先にまとめてくださったので、これ以上追加をするところはないかなと思ったところでもありました。

ということで、大変実りの多い総括質疑となりました。皆さま、ご発言くださいましたこと、ご協力くださったことに感謝申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、以上で総括質疑を終了し、事務局に司会をお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局

山田委員長、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日のプレゼンテーションは閉会となります。

今、山田委員長から総括質疑のまとめをいただいたのですけれども、全体として委員長から一言何かございますでしょうか。

○山田委員長

全体としてまとめというよりも、今日、皆さま１時から長い時間にわたりまして様々なディスカッションしてくださいまして、どうもありがとうございました。これから審査をさせていただくのがむしろ悩ましくなってしまいまして、大変な責任を感じているところでございます。審査結果が皆さまのお手元に届くまでには時間がかかると思いますけれども、この後、今日の内容や情報を委員がそれぞれ検討し、また話し合いの中で審査を進めてまいりたいと思っております。

結果ということよりも、むしろこうした、少しずつ、１つずつの取り組みが茅ヶ崎をまた茅ヶ崎らしくしていくということを、今日、また大発見できました。そういう楽しさ、そういうすばらしさを目指して、今後も、私たちも努力いたしますし、活動団体の皆さまも、市の事務局の皆さまも、ぜひそんな素敵なまちづくりに少しずつ努力、協力していければいいなと感じました。引き続き、ぜひよろしくお願いいたします。以上とさせていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

今、山田委員長からもご説明いただきましたが、本日の結果につきましては、委員会による評価結果を受けまして、最終的に市長が判断、決定いたします。採択、不採択等につきましては、３月下旬に皆さまに書面でご連絡するとともに、ホームページ等でお伝えする予定となっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の令和４年度実施市民活動げんき基金補助事業公開ヒアリング・公開プレゼンテーションは閉会となります。

また、会場にも傍聴の皆さまがいらっしゃっております。皆さま、どうもありがとうございました。